

PROBLEM PARADISE

Issue 85

Vol.22

January-March 2019



Journal of Japanese Chess Problem Society

Contents

Orthodox	……1
Endgame	……4
Helpmate	……8
Selfmate	……18
Fairy	……20
Retro	……30
Shogi	……34
2019年チェス・プロブレム世界大会 (WCCC) 若手派遣プログラム募集要項	……33
Problem Paradise Informal Tourney Award (Shogi 2015-17)	……37
WCCC 2018 参加レポート	……42
18th Japanese Sake Tourney Award	……47
第15回 International Solving Contest 参加レポート	……55
Definitions	……60
第83号解答成績	……64

各セクションごと、および全体で、1題5点として成績を集計します。オーソドックスの#2以外の作品については、主要変化と思われるものをすべて記入してください。短評大歓迎。各セクションごとに別紙を使用し、それぞれに氏名を記入すること。締め切りは**2019年4月30日**消印有効。宛先は Solution Editor の若島まで。また、作品の投稿は直接に担当者へ。

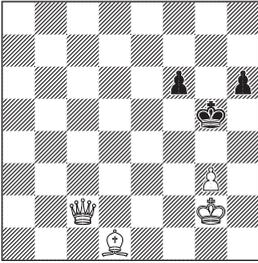
All solutions should be sent to the Solution Editor Tadashi Wakashima (Niina 7-8-13, Minoh-shi, Osaka 562-0005, Japan) before **April 30, 2019**. Please write down your solutions of each section in separate sheets. Solutions and comments by e-mail (tadashi@hcn.zaq.ne.jp) are most welcome. All originals should be submitted to the sub-editors. Their names and (e-mail) addresses are given on the back cover. Computer-tested problems are indicated by C+.

第85号をお届けします。世界大会の参加レポート、ISCの参加レポートなど、盛り沢山の内容になり、今号も64ページの厚さになりました。どうぞお楽しみください。

*新規会員が一気に7名も増えました。小池正浩、鈴木康夫、一浦大輔、中嶋正和、松野陽一郎、吉野隆、藤岡俊雅のみなさんです。これからどうぞよろしく。

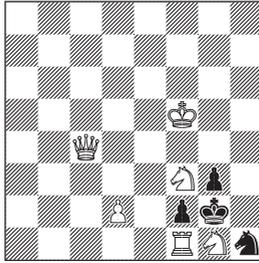
*吉井雅人さんと齋藤光平さんのお二人に、賛助会員になっていただきました。ありがとうございます。いろいろとプロバラの運営で難しい問題があったものの、みなさまのご協力で、どうやら乗り切れる見込みになりました。感謝します。

D494 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



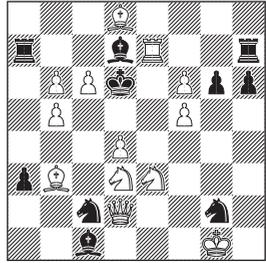
#2 (4+3)

D495 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



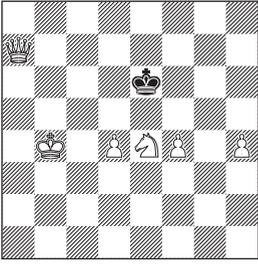
#2 (6+4)

D496 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



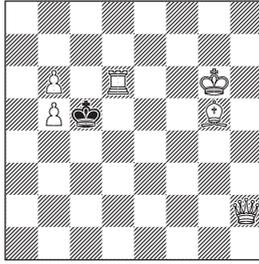
#2 (13+10)

D497 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



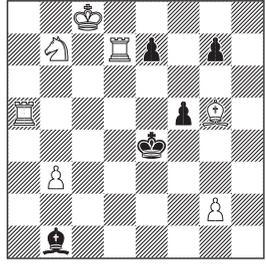
#3 (6+1)

D498 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



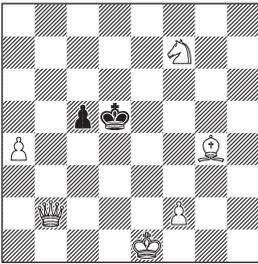
#3 (6+1)

D499 Leonid Makaronez
C+ (Israel)



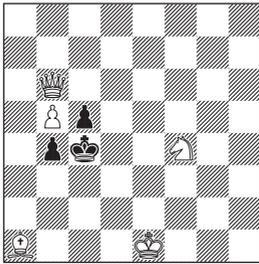
#3 (7+5)

D500 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



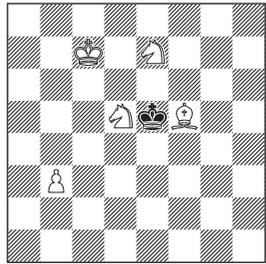
#3 (6+2)

D501 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



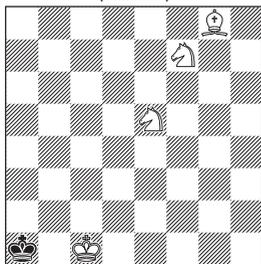
#4 (5+3)

D502 Victor Zheltukhov
C+ (Russia)



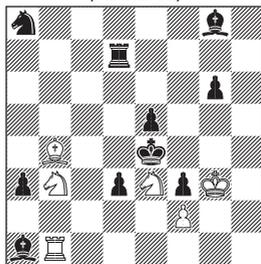
#5 (5+1)

D503 Victor Zheltukhov
C+ (Russia)



#6 (4+1)

D504 Paul Raican
(Romania)



#11 (6+10)

Orthodox

Orthodox Editor

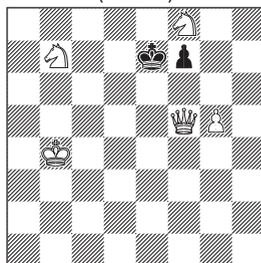
Yuji Kikuta (菊田裕司)

Judge 2018-2019

Mike Prcic (USA)

Issue 83 (D477-481)

D477 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



#2 (5+2)

1. Sd6! Waiting
- 1...Kxd6/Kxf8/Kd8/f6
- 2.Qc5/Qxf7/Qd7/Qxf6#

宮嶋：捨て駒一閃。

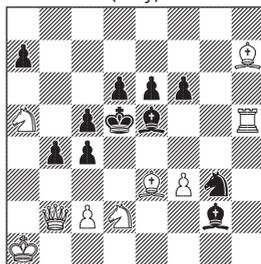
九尾：ナイトで困って、クイーンで仕上げ。簡単に解けたので、次も挑戦する気になりました。

井上：f8に逃げ込まれても詰むように初手を考える。

☆客寄せですが、それにしても単調過ぎですね。手を加えるとしたらスターフライトとかにするとかでしょうか。

[○ 10 △ 0 × 0 - 0]

D478 Bruno Colaneri
C+ (Italy)



#3 (9+11)

- 1.Bd3! (2.Bxc4#)
- 1...cxd3 2.c4+ bxc3 e.p. 3.Qb7#
- 1...Bf1 2.Be4+ Sxe4 3.fxe4#

宮嶋：Bが一度オーバーランして引き返す手順が面白い。

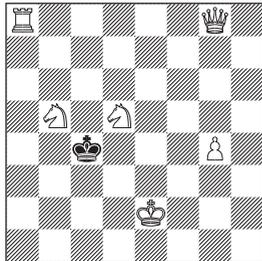
星野：e.pでとられるが、直後のQb7が気持ち良い。

九尾：各駒の役割をじっくり考えて、さあ、まずはBd3でどうだ!?と考えてみたら、それが正解だったようです。ラッキーパンチ。

☆ごく易しい mate in 3. アンパッサンで取らせるのが、Q のアンピンと Q の縦のラインを通すという意味付けがダブっているのが少し味の悪いところ です。

[○ 4 △ 0 × 0 - 6]

D479 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3 (6+1)

- 1.Qg6!
 1...Kc5 2.Kd3 2...Kxd5/Kxb5 3.Qd6/Qb6#
 1...Kxd5 2.Rc8 (3.Qf5#)
 1...Kxb5 2.Kd3 (3.Qb6#) Kc5 3.Ra5#
 1...Kb3 2.Sa3 Kb2/Ka2 3.Qb1#

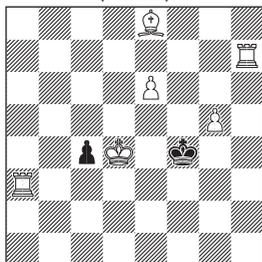
則内 : How to narrow the net.

九尾 : Qb1 の変化に気付いて手応えあり。時間はかかりましたが、少し地味な気も。

☆手が広く、難解と思います。ただ何が狙いかというとよくわかりません。

[○ 2 △ 0 × 0 - 8]

D480 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#4 (6+3)

setplay:

- 1...Kg4 2.Ke5 (3.Rc3 Kxg5 4.Rg3#)

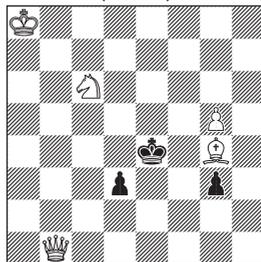
- 1...Kxg5 2.Ke5 (3.Rg3#)
 2...Kg4 3.Rc3 Kg5 4.Rg3#
 2...c3 3.Ra4 (4.Rh5#)
 1.Ra2! (2.Rg2 (3.Rf7#)
 2...Kf3 3.Bc6+ Kf4 4.Rf7#)
 2...Kf5 3.Rh6 (4.Rf6#))
 1...Kf3 2.Ke5 (3.Bc6+ 3...Ke3/Kg3(Kg4)
 4.Rh3/Rg2#)
 1...Kg3 2.Ke4 (3.Rhh2 (4.Rag2#)) c3
 3.Rc2 Kg4 4.Rg2#

星野 : R を g2 に据える狙いだが、三段目の利きを外す手から入るので指し難い。

☆ 1.Rhh2? の誤解がありましたが、1...c3 2.Ra5 Kg4! で逃れます。

[○ 1 △ 0 × 1 - 8]

D481 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#4 (5+3)

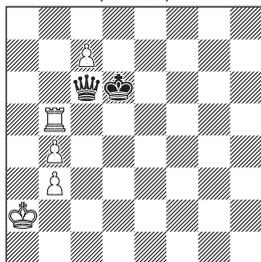
- setplay: 1...Kd5 2.Qb5+Kd6 3.Kb7
 (4.Qe5#)
 1.Bh5! (2.Qe1+ 2...Kd5 3.Bf3+ Kd6/
 Kc5(Kc4) 4.Qe7/Qb4#
 2...Kf4/Kf5 3.Qe5#)
 1...Kd5 2.Qb5+ Ke6(Kd6) 3.Be8 (4.Qe5#)
 1...Kf4 2.Qb4+ Kxg5 3.Qg4+ Kf6/Kh6
 4.Qg6#
 2...Ke3 3.Qe1+ Kf4 4.Qe5#
 1...Kf5 2.Qb5+ Ke6 3.Be8 (4.Qe5#)

☆こちらも手が広く、1.Bh5 ! のキーやその後の手順も見えにくく、正解者ゼロでした。

[○ 0 △ 0 × 0 - 10]

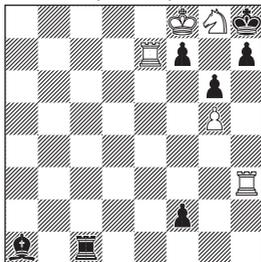
(Continued on p.19)

E102 Pavel Arestov
(Russia)



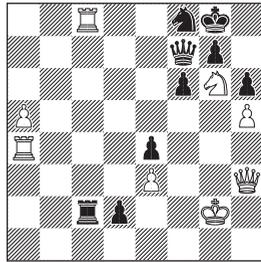
Win (5+2)

E103 Peter Krug
(Austria)



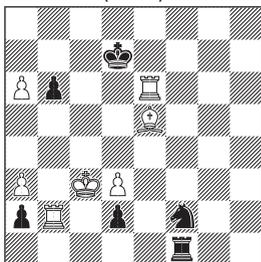
Draw (5+7)

E104 Peter Krug
(Austria)



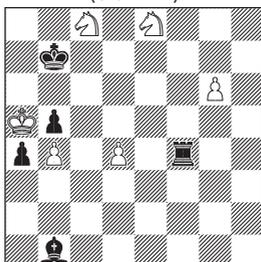
Win (8+9)

E105 Amatzia Avni
(Israel)



Draw (7+6)

E106 Michal Hlinka
Lubos Kekely
(Slovakia)



Draw (6+5)

Endgame

Endgame Editor

Hiroshi Manabe (真鍋 浩)

Judge 2019-2020

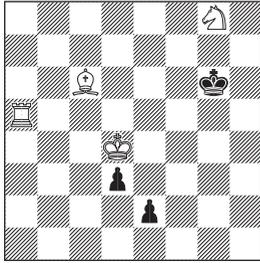
Mario G. Garcia (Argentina)

め切ってください。E105は白黒双方のaポーンを巡る戦い、細かな綾を楽しんでください。E106は白はナイト2つを最大限活かして、ドローに持ち込んでください。

Issue 83 (E089-094)

今号から年度が代わり、新たな Tourney がスタートします。E102は初形も手順もシンプル、最後はポーンエンディングの基本形です。E103は黒からf1=Qが見えていますが、初手の正解を探してください。E104は色々な駒が当たっていますが、黒Kも危ない形なので、攻

E089 Valery Kalashnikov
(Russia)



Win (4+3)

1.Be8+ Kg7 2.Rg5+ Kf8 3.Sf6 e1=Q
4.Rg8+ Ke7 5.Sd5+ Ke6 6.Rg6+ Kf5
7.Se3+ Kf4 8.Rg4+ Kf3 9.Bc6+ Kf2
10.Rg2# Win

☆簡素で手が見えやすい初形です。1.Be8+ とチェックすると、1...Kh7 には 2.Rg5 として 3.Sf6+ Kh6 4.Rg6# が受けられません。1...Kg7 にも 2.Rg5+ Kf8 3.Sf6 と駒を連結させます。

☆ 3...d2 の応手には、4.Rg8+ Ke7 5.Sd5+ Ke6 (5...Kd6 6.Rg6#) 6.Rg6+ Kf5 7.Se3+ Kf4 8.Rg4+ Kf3 9.Bc6+ Kf2 10.Rg2+ Ke1 11.Ba4 となって白勝ちです。作意は 3...e1=Q ですが、一直線に 4.Rg8+ Ke7 5.Sd5+ Ke6 6.Rg6+ Kf5 7.Se3+ Kf4 8.Rg4+(8.Sg2+? Kf5 9.Sxe1 d2=) Kf3 9.Bc6+ と進みます。

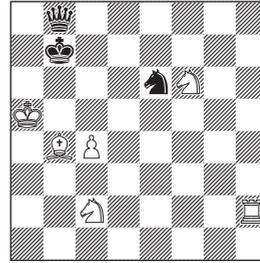
☆ 作意は 9...Kf2 10.Kf2# のメイトですが、9...Ke2 10.Rg2+ Qf2 11.Rxf2+ Kxf2 12.Kxd3 も B+S のエンディングで白勝ちです。

若島：これは追い回すだけなのでスラスラ解けました。

Wakashima: Easy to solve by chasing black king.

[○ 2 △ 0 × 0]

E090 Daniel Keith
(France)



Win (6+3)

1.Rh7+ Kc6 2.Ka4! Qf4 3.Bc3! Qxc4+
4.Sb4+ Kd6 5.Rd7+ Kc5 6.Rd5+ Kb6
7.Be5! Sc5+ 8.Rxc5 Kxc5 9.Sd7# Win

☆白 K も黒 K も共に危ない形です。1.Rh7+ Kc6 の局面で、退路を開く 2.Ba3? は 2...Qb6+ 3.Ka4 Sc5+ 4.Bxc5 Qa6+ 5.Kb3 Qxc4+ 6.Kxc4 でステイルメイトです。正解は 2.Ka4! と引く手で、黒は 2...Qf4 と浮き駒を狙います。若島：ここで手が止まってしまいました。

Wakashima: Could not find further moves here.

☆正解は 3.Bc3!。チェックで Pc4 を取られてしまいますが、3...Qxc4+ 4.Sb4+ とクロスチェックが入り、今度は黒 K がピンチです。

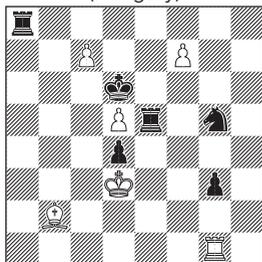
☆ 4...Kb6/Kc5 5.Sd7+ は簡単な勝ち。4...Kd6 5.Rd7+ Kc5 6.Rd5+ Kb6 と進んで 7.Be5! が好手です。7...Qc1 には 8.Rd6+、7...Ka7 8.Ra5+ Kb7 9.Rb5+ Ka7 10.Sd7 Qc1 11.Rb6 Sc5+ 12.Kb5 Sxd7 13.Sc6+ Qxc6 14.Rxc6 も白勝ちです。

☆作意は 7...Sc5+。これにはあっさり 8.Rxc5 と取れば、8...Qxc5 には 9.Sd7+ のフォークで白勝ち。8...Kxc5 にも 9.Sd7# で綺麗なメイトです。

☆少ない駒数で密度の濃い好作と思います。

[○ 0 △ 1 × 1]

E091 Peter Gyarmati
(Hungary)



Draw (6+6)

1.f8=Q+ Rxf8 2.Ba3+ Kxc7 3.Bxf8 Sf3
4.Rxg3! Re3+ 5.Kc4 Sd2+ 6.Kxd4 Rxg3
5.Bd6+ Kxd6 Draw

☆ 初形から、1.f8=Q+ ~ 2.Ba3+ の Skewer (串刺し) は見えやすいと思います。2...Kxd5 の変化は 3.Bxf8 Re3+ 4.Kc2 (4.Kd2? Se4+) Rc3+ 5.Kb2 (5.Kb1? Se4 6.Rc1 Sd2+ 7.Kb2 g2 8.Rg1 Sc4+ 9.Kb1 Se3) Se4 6.Rc1! Rxc1 7.Kxc1 g2 8.c8=Q g1=Q でドロー。2...Kxc7 3.Bxf8 と進みます。若島：3...Sf3 がなかなか見えず、最初はどうかやってもドローだよなと思っていました。序の入り方にもう一工夫欲しいところ。

Wakashima: 3...Sf3 was a difficult move to find, without which it looked easy draw. Some improvement in first few moves is needed.

☆ 3...Sf3 が局面を絞る好手。4.Rg2? には、4...Re3+ 5.Kc4 d3 6.Bb4 Sh4 7.Rg1 g2 8.Bc5 Rh3 9.Kc3 Rh1 10.Kxd3 Sf3 11.Rxg2 Se1+ で黒勝ちなので、4.Rxg3 と取るしかありません。

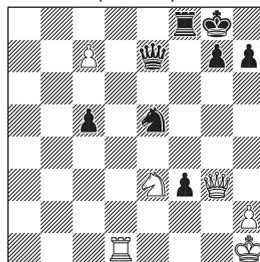
☆ これには 4...Re3+ 5.Kc4 Sd2+ 6.Kxd4 Rxg3 と R を素抜かれてしまいますが、ここで決め手の 5.Bd6+ でステイルメイトのドローになります。

塩見：Endgame は正直どれが作意なのかよくわからないことも多いが、これはいかにも「答」という感じがする。

Shiomi: Endgames are often difficult to find the intended moves, but this line really looks like the 'solution.'

[○ 2 △ 0 × 0]

E092 Peter Krug
(Austria)



Draw (6+8)

1.Sf5! Qxc7 2.Sh6+ Kh8 3.Qxe5 Qc6
4.Sf7+ Kg8 5.Qd6 Qa8! 6.Sh6+ Kh8
7.Qxf8+ Qxf8 8.Rd8 Qxd8 9.Sf7+ Kg8
10.Sxd8 c4 11.Se6 c3 12.Sc5 c2 13.Sd3
g5 14.Kg1 g4 15.Kf2 Kg7 16.Ke3 h5
17.Kd2 h4 18.Ke3 Kg6 19.h3 Kf5 20.Sc1
Draw

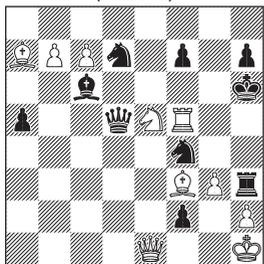
☆ 1.Sf5 は自然な手。1...Qxc7 2.Sh6+ Kh8 の局面で、3.Qxe5 が見えれば、3...Qxe5 4.Sf7+ の変化は難しくありません。

☆ 3...Qc6 が最強の受け。4.Sf7+ Kg8 と進んで、5.Sd8? は 5...Qa8 6.Qe6+ Kh8 7.Sc6 f2 で黒勝ち。5.Qd6 が正解ですが、黒はまたしても 5...Qa8! とかわすのが最強の受けです。

☆ ここから 6.Sh6+ Kh8 7.Qxf8+ Qxf8 8.Rd8 Qxd8 9.Sf7+ Kg8 10.Sxd8 と一気に精算します。以下、10...c4 11.Se6 c3 12.Sc5 c2 13.Sd3 とこの位置に S を据えれば、以下手数は長くなりますが、20.Sc1 までドローになります。

[○ 1 △ 1 × 0]

E093 Peter Krug
(Austria)



Win (10+10)

- 1.Rf6+ Sxf6 2.Bxf2 Qxf3+! 3.Sxf3 Bxf3+
- 4.Kg1 Rxh2 5.Be3 Sg4 6.Bxf4+ Kg6
- 7.Qb1+ Kg7 8.Qb2+! Rxb2 9.b8=Q Rg2+
- 10.Kf1 Re2 11.Be5+ Rxe5 12.Qb2 Win

☆色々な駒が当たっていますが、先に 1.Rf6+ Sxf6 と捨ててから 2.Bxf2 と取るのが正解です。

若島：2.Bxf2 となったところで、黒の最強の応手がわかりません。

Wakashima: I didn't see the strongest reply after 2.Bxf2.

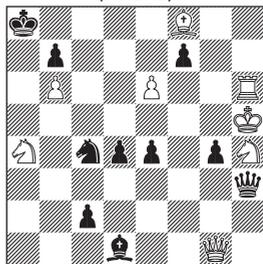
☆ 2...Qxf3+ 3.Sxf3 Bxf3+ 4.Kg1 までは必然として、4...Rxh2 が好手。5.Kxh2? Sg4+ 6.Kg1 Sh3+ 7.Kf1 Sh2# はメイトなので、白は 5.Be3 が必然です。

☆黒は 5...Sg4 と 6...Rh1# のメイティングスレットで網を絞りますが、6.Bxf4+ Kg6 と先手で駒を取って簡単に白勝ちのように見えますが、ここで慎重に手を選ぶ必要があります。

☆正解は 7.Qb1+ Kg7 8.Qb2+ とチェックで白Qを黒Rにぶつけ、8...Rxb2 9.b8=Q と物量で局面を単純化する手です。以下、9...Rg2+ 10.Kf1 Re2 (10...Rh2 11.Ke1 Re2+ 12.Kd1 Sf2+ 13.Kc1 で白勝ち) 11.Be5+ Rxe5 12.Qb2 で白勝ちです。

[○ 1 △ 0 × 1]

E094 Andrzej Jasik
(Poland)



Win (8+10)

- 1.Sb2! Sxb2 2.Qg3!! Qxg3 3.Bd6 Qxd6
- 4.Rh8+ Qb8 5.Rxb8+ Kxb8 6.e7 g3+
7. Sf3 Bxf3+ 8.Kh4 c1=Q 9.e8=Q+ Qc8
- 10.Qe5+ Ka8 11.Qa5+ Kb8 12.Qa7# Win

☆手の広い初形ですが、黒から 1...g3+ 2.Kg5 c1=Q+ のメイティングスレットを受けながら、攻める必要があります。1.Qg3? が妙手に見えますが、1...Qxg3 2. Bd6 Sxb6 3.Bxg3 fxe6 4.Sxb6+ Ka7 5.Sc8+ Ka8 でドローにしかなりません。

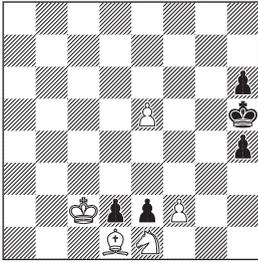
☆発見の難しい初手は、1.Sb2! という妙手。白Nを黒Kから遠ざける一見妙な手ですが、1...g3+ に は 2.Sxd1 c1=Q 3.Qxd4 Sxb6 4.Rh8 で白勝ち、1...Qh2! にも 2.Bd6 g3+ 3.Sxd1 Qe2+ 4.Sf3 Sxb6 5.Se3 で白勝ちです。手強いのは 1...Qb3 ですが、2.Rh8 Sxb6 3.Bc5+ Ka7 4.Bxb6+ Qxb6 5.Rc8 Qb5+ 6.Kh6 Qe5 7.Sg6 Qxe6 8.Qxd4+ となって白勝ちです。

☆作意は 1...Sxb2 ですが、今度こそ 2.Qg3!! が炸裂します。2...Qc1 3.Qb8+ Kxb8 Bd6+ はメイトになるので、黒は 2...Qxg3 と取らざるを得ず、以下 3.Bd6 の時に 3...Sxb6 と取る手が無くなっているのが、1.Qg3 の紛れとの違いです。従って、黒は 3...Qxd6 と取るしかなく、以下 4.Rh8+ Qb8 5.Rxb8+ Kxb8 6.e7 g3+ 7.Sf3 Bxf3+ 8.Kh4 c1=Q 9.e8=Q+ Qc8 10.Qe5+ Ka8 11.Qa5+ Kb8 12.Qa7# まで一本道でメイトになります。

☆難解な序盤の、微妙な緩がポイントとなる一局でした。

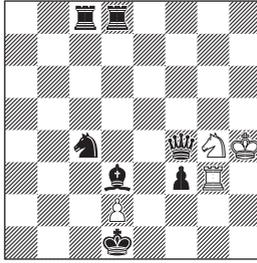
[○ 0 △ 0 × 2]

H1072 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



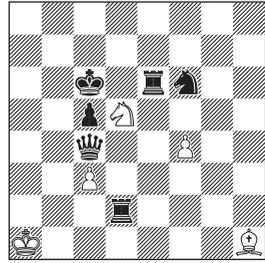
H#3 2sols (5+5)

Alexander Pankratjev
H1073 Michael Gershinsky
C+ (Russia, Ukraine)



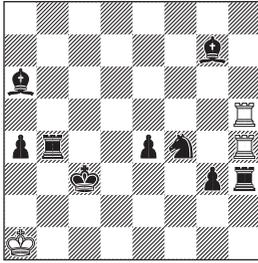
H#3 2sols (4+7)

H1074 Christopher J.A. Jones
C+ (Great Britain)



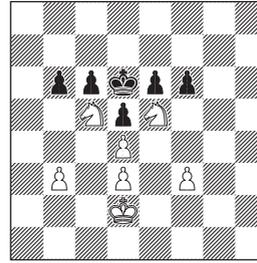
H#3 (5+6)
b) bRe6→d6

H1075 Stefan Milewski
C+ (Poland)



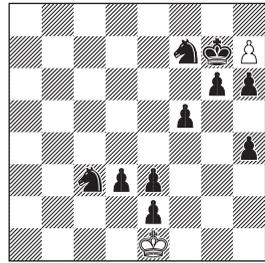
H#3 4sols (3+9)

H1076 Miloje Ilic
C+ (Serbia)



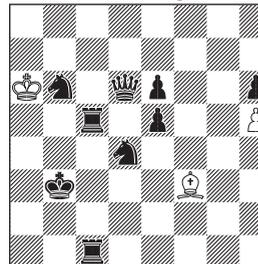
H#3 2sols (7+6)

Mirko Degenkolbe
H1077 Rolf Wiehagen
C+ (Germany)



H#5.5 2sols (2+10)

H1078 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#5.5 (3+9)

H1079 Zlatko Mihajloski
C+ (Macedonia)



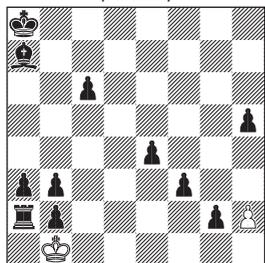
H#5.5 (2+14)

Kostas Prentos
H1080 Ioannis Kalkavouras
C+ (USA, Greece)



H#6.5 (2+7)

H1081 Alexander Pankratjew
C+ (Russia)



H#8 (2+11)

Helpmate

Helpmate Editor

Masato Yoshii [吉井雅人]

Judge 2019

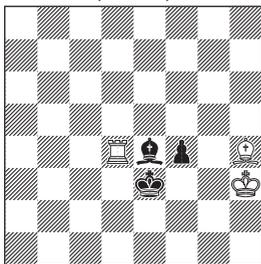
Ivan Denkovski (Macedonia)

今号は 19 問の出題です。2019 のジャッジはマケドニアの Ivan Denkovski さんにお引き受けいただきました。

This issue has 19 compositions. I am very glad to announce Ivan Denkovski from Macedonia takes on the judge of 2019!

Issue 83 (H1021-1040)

H1021 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#2* 3sols (3+3)

Set play 1...Rd2 2.f3 Bg5#

1.Ke2 Rxe4+ 2.Kf1 Re1#

1.Bd3 Kg2 2.Be2 Bf2#

1.f3 Rd5 2.Kf4 Bg5#

宮嶋：1.Ke2 解の泥臭い手順が好き。

原岡：口開けに最適。

九尾：Rd5の解が見えにくかったです。

水野：KBPを初手に動かせばいいんですね。

さすがにPPは無理でしたか。

小林：簡潔で楽しめる。Set ? 1... Rd2 f3 2.Bg5# あれ？

井上：1...Rd2 とする SetPlay もあるようだが、解として設定するかは作者次第？

則内：And a set 1... Rd2 f3 2.Bg5#

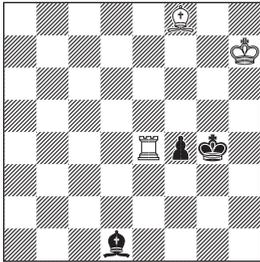
塩見：set play(1...Rd2 2.f3 Bg5#) ではないですか？

○オープニングにふさわしい軽い作品と、言いたかったところですが、皆さんご指摘の通り Set play の条件が抜けていました。私の出題ミスです。申し訳ありませんでした。なお、解答されたすべての方の点数は 5 点にしています。

MY : I did not add the condition of Set Play. I apologize to the author Eligiusz Zimmer and solvers of this original. A

light work from very good initial position.

H1022 Miloje Ilic
C+ (Serbia)



H#2 3sols (3+3)

- 1.Kg5 Rxf4 2.Bh5 Bh6#
- 1.Kh5 Be7 2.f3 Rh4#
- 1.Kf5 Bg7 2.Bg4 Re5#

宮嶋 : f・g・h と 3 ファイルに K が動く構成がシンプルな形できれいに表現されていますね。

星野 : 予想の場所で詰んでくれるので助かる。

井上 : 初手 K や、白の B と R を 1 回ずつ動かすところに 3 解の統一感がある。

九尾 : Kh5、Kg5 ときたので、最後は Kf5 かと思ったもののなかなか解けませんでした。解けてスッキリ。

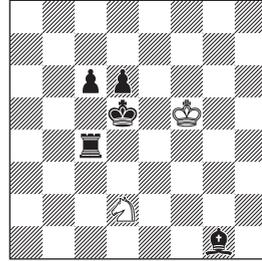
則内 : The pawn has various roles.

小林 : 3 解目が見えにくかった。

○ 初形の良さと初手 K の動きがポイント。軽快作です。

MY : K moves are nice with each solutions with very economical setting.

H1023 Vito Rallo
C+ (Italy)



H#2 2sols (2+5)

- 1.Bc5 Sf1 2.Rd4 Se3#
- 1.Rc5 Sc4 2.Bd4 Sb6#

原岡 : S の動ける範囲を調べれば簡単

井上 : 予想通りの、S によるメイト。

九尾 : S で詰む形を考えれば容易ですが、それでも Sb6 まで動くと楽しいですね。

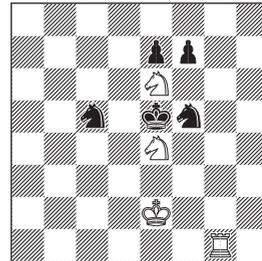
則内 : Lovely symmetrical solutions.

小林 : wS が大車輪で活躍する。

○ シンプルなテーマですが、S の動きが楽しい作品です。

MY : S moves are interesting. A miniature.

H1024 Stefan Milewski
C+ (Poland)



H#2 4sols (4+5)

- 1.Sxe4 Sc5 2.Kf4 Sd3#
- 1.Sxe6 Sc5 2.Kf6 Sd7#
- 1.Kxe4 Sc7 2.e5 Rg4#
- 1.Se3 Kxe3 2.fxe6 Rg5#

星野：二重にブロックされているので、e5が見えにくく苦労した。

井上：Umnov+Zilahiの2解と、Sを取らせてRで横からメイトする2解からなるHOTF。初手駒取りと考えると、4解目が見つけにくかった。

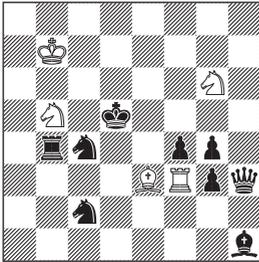
則内：One of white knights is a victim.

塩見：初手はすべて駒取りかと思ってしまい苦戦した。

○2x2のHOTF。完全なコントラストではありませんが、Zilahi + Umnovの味が良いと思います。

MY：HTOF. Zilahi and the touch of Umnov is good though solutions don't have perfect contrast.

H1025 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



H#2 4sols (5+9)

- 1.Bxf3 Bd4 2.Be4 Sxf4#
- 1.gxf3 Kc7 2.Qe6 Sc3#
- 1.S4xe3 Rxe3 2.Rc4 Re5#
- 1.Ke6 Kc6 2.fxe3 Sc7#

星野：一番見付けやすいKe5が破調(2手目駒取り)なので、他の手がかえって見えにくかった。

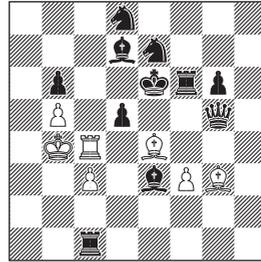
則内：The alternative of wB or wR.

小林：wRかwBは取られる運命にある。

○これも2x2のHTOF。f3の取り方2つとe3の取り方2つ。最後の解が破調ではありませんが。

MY：Another HTOF. Taking f3 and taking e3. Solutions have good harmony.

H1026 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



H#2 4sols (7+11)

- 1.dxc4 Bd3 2.Kd5 Bxc4#
- 1.dxe4 Rxe4+ 2.Kf5 Re5#
- 1.d4 Rxd4 2.Rf7 Rd6#
- 1.Be8 Bxd5+ 2.Kd7 Rc7#

星野：4解目は必要？と思うのだが、Pが取られるのを含めて1つのテーマと言われればそうかも知れない。

則内：Stepwise R# trio, and a smart B#.

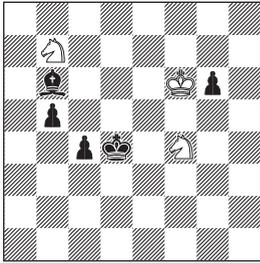
塩見：d5Pが取られる場所のバリエーション。

小林：すぐ読みそうで、さにあらず。

○さらにこれも2x2のHTOF。Pd5がRc4、Be4を取るのがZilahiで1セット、白からd5のPを取るのが1セットという意図のようです。

MY：One more HTOF. The Pd5 captures Rc4 and Be4 with Zilahi in 2 solutions, and white captures d5 pawn in the other solutions.

H1027 Vito Rallo
C+ (Italy)



H#2.5 2sols (3+5)

1...Sa5 2.Kc5 Ke5 3.c3 Sd3#
1...Sxg6 2.Kd5 Kf5 3.Bd4 Se7#

星野 : Pg6があるせいで、Kf5が指し難い。

則内 : It's a stylish lesson for S.

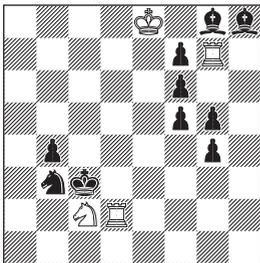
塩見 : シンプルだが難問。

小林 : wSかwKが動いてbKが動けるように5段目を開けるのだが...

○2Sでどうメイトに持っていかの puzzle。簡素な初形ですが、Sの動きはなかなか厄介です。

MY : How to mate with 2S. A good puzzle with economical setting.

H1028 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



H#2.5 2sols (4+10)

1...Rxc5 2.fxc5 Se1 3.Bd4 Rc2#
1...Rg6 2.fxc6 Sa3 3.Bc4 Sb1#

星野 : Rを取らせるために、随分ゴージャス

な壁。

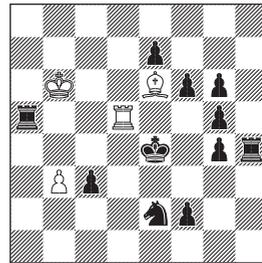
則内 : I like these systematic twins.

小林 : なぜか、本号最初に解けた。

○ひとつ解けるともう一つも解ける、これぞヘルプメイトのツイン。コントラストが鮮明です。Jonssonさんらしい作品だと思います。

MY : Nice twin with clear contrast and good active sacrifice by our regular contributor.

H1029 Pierre Tritten
C+ (France)



H#2.5 4sols (4+11)

1...Rd2 2.Sd4 Re2+ 3.Kd3 Bc4#
1...Bc8 2.e5 Rd7 3.Kf5 Rd4#
1...Rd8 2.Re5 Bd7 3.Kd5 Bf5#
1...Bxc4 2.Ke3 Bf5 3.Rf4 Rd3#

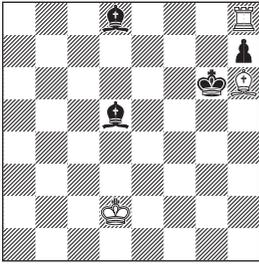
則内 : Discovered-checkmates are nice.

小林 : 駒が動いた後、駒が横切る。4回目は悩んだがh4Rの意味に気がつけば...

○これもまたHTOF。ひとつは開き王手でのメイトのセット、もうODTのセット。佳作だと思います。

MY : One couple of solutions showing reciprocal Indians and black line opening by White. One couple of solutions showing interchange of function between WR/WB (guard/mate). Diagonal-orthogonal correspondence. A very nice work.

H1030 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#3 2sols (3+4)

1. Kxh6 Ke3 2. Kh5 Kf4 3. Kh4 Rxh7#
1. Bg8 Bg5 2. Kg7 Bxd8 3. Kxh8 Bf6#

井上：ジラヒ。駒数が少ないので、最終形が想定しやすい。

則内：Ironic fates of wandering king.

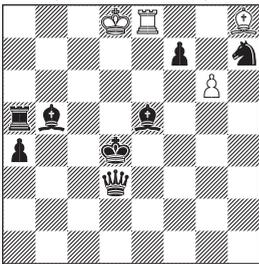
内田：ジラヒは意外でした。

小林：穴に潜り込む bK...

○あまり見ない感じの強引な Zilahi。駒数は少ないですし、これはこれでありだと思います。

MY：Unexpected unique Zilahi from economical setting. Interesting work.

Alexander Pankratjew
H1031 Michael Gershinsky
C+ (Russia, Ukraine)



H#3 2sols (4+8)

1. Bxh8 g7 2. Bc4 gxh8=Q+ 3. Re5 Qxe5#
1. Bxe8 gxf7 2. Rc5 fxe8=Q 3. Rc4 Qxe5#

星野：Ph7は何の誘いと思ったら、ちゃんと余詰消しになっていた。

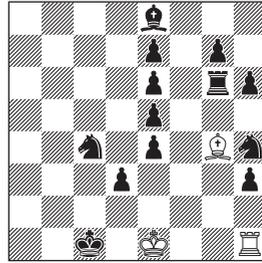
則内：Humorous diving of black bishops.

小林：両王手の筋かと思ったら g6 のポーン の存在 ...。やはり Queen は強い！！

○あまり見ない筋ですが、やりたいことは明確です。B を取らせ e5 でメイトと、解のコントラストも良いですね。

MY：Solutions have good contrast and harmony.

H1032 Jozef Lozek
C+ (Slovakia)



H#3 (3+13)
b) bKc1→f7

- a) 1. Kb1 Bd1 2. Rg2 Bb3 3. Rb2 0-0#
b) 1. Sf5 Bxf5 2. Rf6 Bh7 3. Rf1+ Rxf1#

星野：まずはキャスリング可能か調べる鉄則を忘れて、えらく苦勞した。

則内：Partner dances by wB & bR.

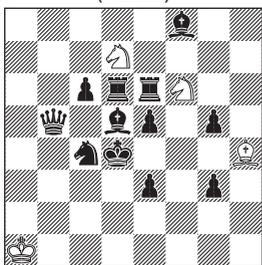
塩見：wB と bR の軌道が交差するので思いつきにくい。

小林：明らかにキャスリングがあるはずなのだが、Kb1 には意表を突かれる。

○特に a) 解は意表を突くメイト形で面白い作品だと思います。片方がキャスリングでもう片方がそうでないのも主張。

MY：Model mates without wPs. Surprising final position. 0-0 or not. A enjoyable work.

Aleksandr Pankratjev
H1033 Aleksey Ivunin
 C+ (Russia)



H#3 2sols (4+12)

- 1.Rxd7 Bxg3 2.Bb4 Bxe5+ 3.Kc5 Sxd7#
 1.Rxf6 Bxg5 2.Be6 Bxe3+ 3.Kd5 Sxf6#

星野：普通に Sxg3/5 から入れれば何のことはないが、S を動かそうとして大苦戦。

則内：Imprisonments with Zilahi.

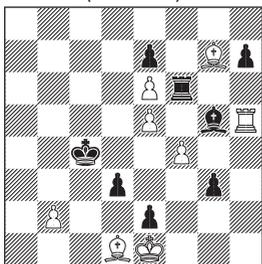
塩見：wBh4 の動きが好対照。

小林：初手、お互いに駒を取り合う。

○初手で種を撒いておいて最後に回収。どこでメイトにするかのパズル。Zilahi にもなっています。

MY：Interesting Ss Zilahi. Solution have good harmony.

H1034 Abdelaziz Onkoud
 C+ (Morocco)



H#3 2sols (8+8)

- 1.Rxe6 Rh6 2.Rxe5 Rb6 3.Rc5 Bb3#
 1.Bxf4 Bh6 2.Bxe5 Bd2 3.Bd4 b3#

星野：白の P が邪魔をして、中々正解が見

えなかった。

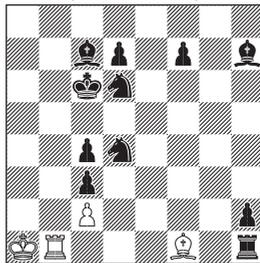
則内：Paths of pieces are hard to find.

小林：結局 bK は動かず。

○ B、R それぞれ Bristol 風味の長い移動で、解のコントラストもあり面白い作品だと思います。

MY：Bristol like move of BB/RR, long trip of B and R. Good contrast with solutions.

H1035 Christopher J. A. Jones
 C+ (Great Britain)



H#3.5 2sols (4+11)

- 1...Bxc4 2.Bd3 cxd3 3.Se6 d4 4.Sc5 d5#
 1...Rb5 2.Sb3+ cxb3 3.Be4 bxc4 4.Bd5 cxd5#

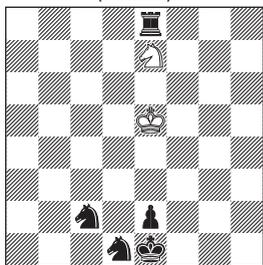
則内：The finales are hard to imagine.

小林：H1037 と対で楽しめた。

○駒取りの Jones さんですが、今回はこう来たか！という感じです。よちよち P が上がって行って最後にメイトにする動きがユーモラス。

MY：A unique work by our regular contributor. P moves are very interesting. Solutions have very good harmony.

H1036 Stefan Milewski
C+ (Poland)



H#4 (2+5)

1.Rc8 Sc6 2.Kd2 Sa5 3.Se1 Kd4 4.Rc2 Sb3#

星野：Kが2段目に来てくれないと届かないので、詰み場所はすぐに判明する。

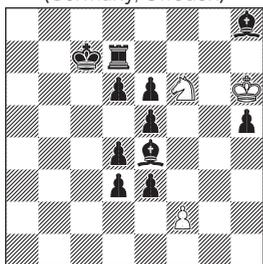
則内：It's so simple to feel happy.

小林：先ずRを動かさないことには話にならない。

○あまりないH#4の1解作品ですが、Ideal Mate、2つのピースでのメイトが珍しいと思います。

MY：Ideal mate from very economical setting.

H1037 Rolf Wiehagen
Christer Jonsson
C+ (Germany, Sweden)



H#4 2sols (3+11)

1.Kc6 Sxe4 2.Kd5 Kxh5 3.Kxe4 Kg4 4.d5 f3#

1.d5 Sg4 2.Kd6 Sxe5 3.Kxe5 Kg5 4.Rd6

f4#

星野：d7R と h8B を何とかしたくなるが、これが最適な配置？

則内：The knight escorts the black king.

小林：H1035 と対で楽しめた。

○壁破壊閉じ込め系作品です。白のピースが黒のピースを取った場所でメイトになる Kniest というテーマも入っています。ポーンのステップの対比もあり遊び心にあふれた作品。楽しいです。

MY：Active sacrifices and Kniest and mate by different steps of pawn. Very Pleasant collaboration by our regular contributor!

H1038Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#4 (4+10)

1.Bxe3 Bf2 2.Bh6 Bh4 3.Kf4 Kf2 4.Bg5 Bg3#

星野：無駄に遠回りしているみたいで、不思議な作

則内：Tempos by bishops are impressive.

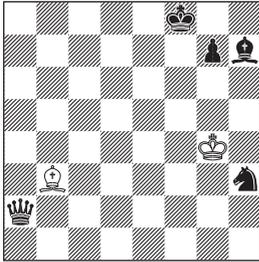
小林：g1での詰上りを目指すと失敗する。

○メイトポジションに持っていくために、白と黒のテンポ、白黒BのSwitchbackを駆使。これがH#4におさまっているのですからすごい一言。さすが Abdurahmanovic さんの作品です。

MY：White and black tempo-move

and Switchback in single-liner h#4! A enjoyable work by top composer!

H1039 Mike Prcic
C+ (USA)



H#5 2sols (2+5)

1. Bb1 Bc2 2. Qg8 Kf5 3. Qh8 Ke6 4. Kg8 Bb3 5. Bh7 Ke7#

1. Bg8 Kxh3 2. Qh2+ Kg4 3. Qh8 Kf5 4. Bh7+ Ke6 5. Kg8 Ke7#

星野：h3S を取りに行っても、ギリギリ間に合う展開がスリリング。

則内：Different orbits lead to the same.

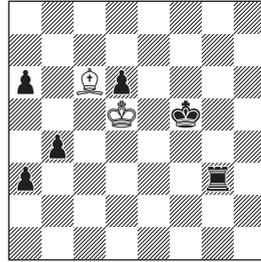
塩見：バリアーをかいくぐるような感覚。

小林：怪しい bS。1 つ目の解には関係しないのに、と思いつつ、2 つ目の解のジャマ駒だったのですネ。

○最後はロイヤルバッテリーで決まるのですが、あの手この手で B を遮り Q、B を折りたたんで壁を作ります。簡素な初形からいずれの解にも白黒 B の Switchback、Krasinc、Model Mate が盛り込まれた力作だと思います。

MY：A fine work by top composer. Switcbacks, line openings, Krasinc, model mate, and royal battery. A well-constructed work!

H1040Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#6 (2+6)

1.a5 Kd4 2.Ke6 Bf3 3.Kd7 Ke4 4.Kc6 Kd3+ 5.Kb5 Kc2 6.Ka4 Bc6#

星野：包囲網をすり抜ける、アクロバットを見ている感じ。

則内：Marvelous with well-made interferences.

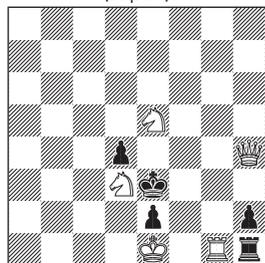
小林：初手 Rb3 かと迷ふ。bK が上部から回り込むしかないかわかれれば、あとは一気…。

○ wB、bR の効きを遮断しつつそれぞれの K が移動します。最後は Klasinc の B の Switchback でメイト。こちらもさすがの作品。

White Indian and wB-bK square vacation and Klasinc on c6. wK-wB gate opening in two directions. Another fine work by top composer!

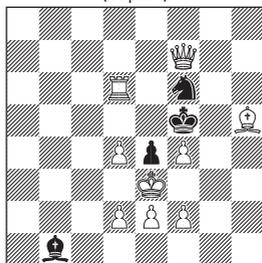
(Continued on p.19)

S237 Tired Boy
C+ (Japan)



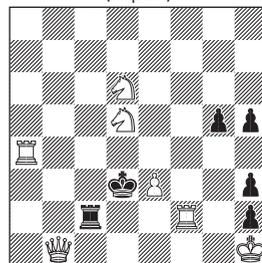
S#2 (5+5)

S238 Tired Boy
C+ (Japan)



S#3 (9+4)

S239 Tired Boy
C+ (Japan)



S#3 (7+6)

Selfmate

Selfmate Editor

Kohey Yamada (山田康平)

Judge 2018-2020

Diyan Kostadinov (Bulgaria)

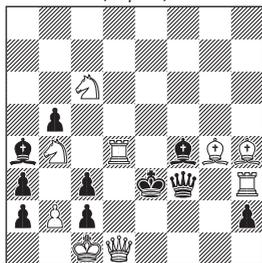
☆ ICSに参加しましたが、肝心のセルフがまったく解けず残念でした。

☆ でもその代わりに、若島先生から ChessComposer の存在を教えてくださいました。スマホで Popeye が使えます！

☆ さて、今回はスマホでできた3作です。いずれも難しくありません。

Issue 83 (S232-233)

S232 Tired Boy
C+ (Japan)



S#2 (9+10)

1.Rc4!(2.Qd2+ cxd2#)
1... bxc4 2.Qe2+ Kxe2#
1... cxd1=S/B,h1=R/Q 2.Re4 Kxe4#

星野：Qd2 と Rd4 の捨て駒が力強い。

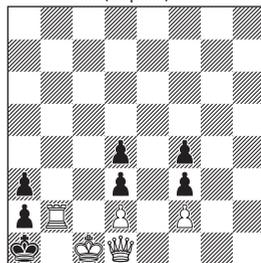
小林：両端のポーンの配置は伊達じゃなかった。

則内：黒成を誘う白の女王がいじらしい。

☆ 強力な Q を無力にするための初手。

☆ h1=R/Q に対し 2.Qe1+ RorQxQ が作意ならまだしもでした。4種成・・・とは言えないし。

S233 Tired Boy
C+ (Japan)



S#4* (5+7)

Set:1...axb2#

1.Rc2 dxc2 2.Qxf3 d3 3.Qb7 f3 4.Qb2+

axb2#

星野：黒には選択肢が全くない。解答を書くのが楽。

小林：RをQに替える手品。これは易しかった。初手はこれしかない。あとは一本道。

駒井：tempo moveがあれば簡単なのに…という趣向

則内：白城を女王に入れ替えるパズル。

☆ヘルプメイトで、もし白番なら1手詰、というのもあり、ひとつの様式のように思いません。

(7.Rh4#)

1...Bd7 2.Kxd7 (3.Bf7+ Kg5 4.Se6#) cxd4 3.Bg4+ Kh4 4.Rf5 (5.Rh5#) dxe5 5.Be2 (6.Rh5#) Rf3 6.Bxf3 (7.Rh5#)

1...Be8 2.Bg4+ Kg5 3.Se6+ Kh4 4.Bf5+ Kh5 5.Rg4 (6.Sf4# 6.Sg7#) Sc6+ 6.Sxc6 (7.Sf4# 7.Sg7#)]

1...Bd5 2.Rf5+ Kh4 3.Sg6+ Kg4 4.Rxd5# (3...Kh3 4.Rh5#)

1...Sc7 2.Bf7+ Kg5 3.Rf5+ Kh4 4.Rh5#

1...Be4 2.Bf7+ Bg6 3.Bxg6+ Kg5 4.Se6#

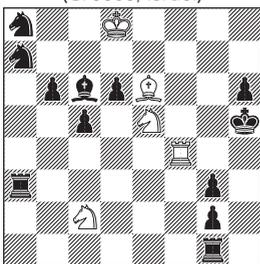
Orthodox

(Continued from p.3)

☆ 84号のD476の結果稿でメインの変化をひとつ(1...Be8)書きもらしてしまいました。図面と全体を再掲するとともに、メインでない変化も補足します。

In the solution of D476 in the Issue 84, I missed one main variation. Here is the total solution.

Ioannis Kalkavouras
D476 Jacques Rotenberg
C+ (Greece, Israel)



#7

(5+12)

1.Sd4! (2.Bf7+ Kg5 3.Se6#)

1...cxd4 2.Bg4+ Kh4 3.Bh3+ Kg5/
Kh5 4.Rf5+ Kh4 5.Sg6+ Kxh3 6.Rf4

Helmate

(Continued from p.17)

○総評など

小林：本号はH#3がいちばんやっかいで、長いものは、易しく楽しく感じました。多少、気分の問題もあるが…。

九尾：今号から解答に参加します。よろしくお祈いします。棋譜は見よう見まねなので変なところがあると思いますが、これから勉強していきます。

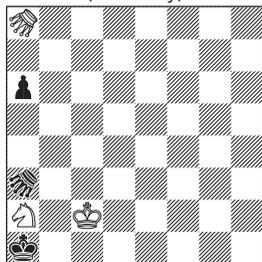
○ご参加頂きありがとうございます。棋譜は全く問題ありませんでしたよ。今後どうぞよろしくお祈いします。

渡邊：前回よりは解けました。H1029、H1031、H1039、H1040などが面白いと思いました。次回も参加したいです。

○次号もぜひよろしくお祈いします。

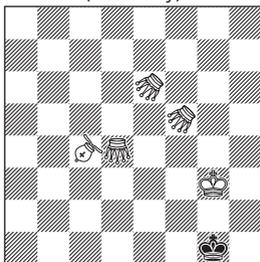
○また次号にお会いしましょう。

F957 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



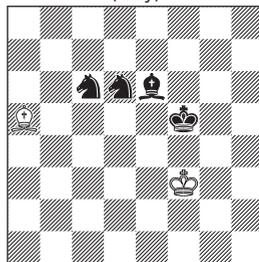
#6 (3+3)
Double Grasshopper a8, a3

F958 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



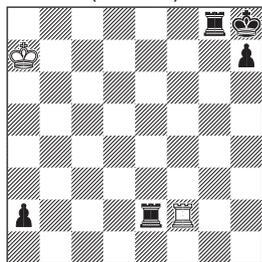
#8 (5+1)
Double Grasshopper d4 e6 f5
Loco c4

F959 Vito Rallo
C+ (Italy)



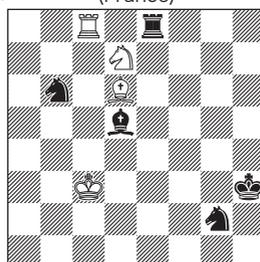
H#2 2 Sols (2+4)
Masand

F960 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



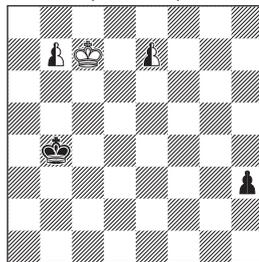
H#2 2 Sols (2+5)
Transmuted Kings

F961 Pierre Tritten
C+ (France)



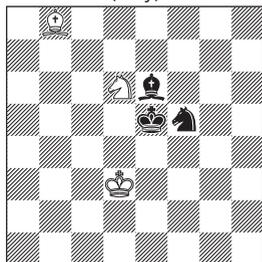
H#2 2 Sols (4+5)
Madras AntiCirce

F962 Eric Huber
C+ (Romania)



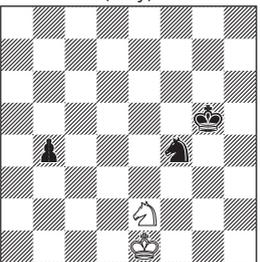
H#2.5 (1+2+2)
b) nPe7→f7
Neutral Pawn b7 e7
Leffie

F963 Vito Rallo
C+ (Italy)



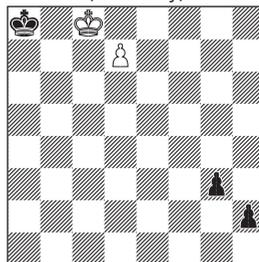
H#2.5 2 Sols (3+3)
Masand

F964 Vito Rallo
C+ (Italy)



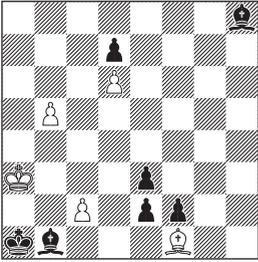
H#3 2 Sols (2+3)
Annan Köko

F965 Andreas Thoma
C+ (Germany)



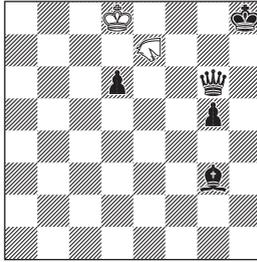
H#3 2 Sols (2+3)
Double Maximummer

F966 Andreas Thoma
C+ (Germany)



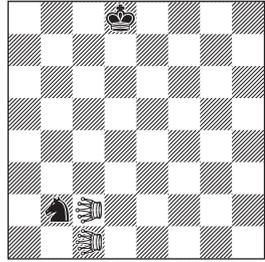
H#4 2 Sols (5+7)
BackHome

F967 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



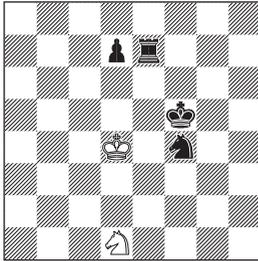
H#5 (2+5)
Giraffe e7

F968 Sébastien Luce
C+ (France)



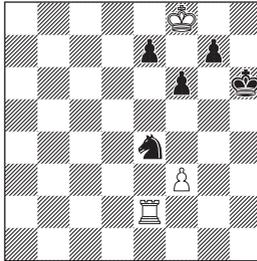
H#6 2 Sols (2+2)
Locust c1 c2
Antipodean Circe

F969 Vito Rallo
C+ (Italy)



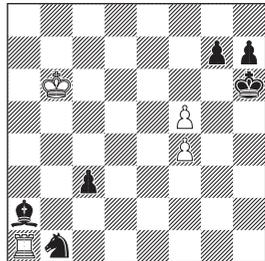
H#7 (2+4)
Alphabetical Chess

F970 Andreas Thoma
C+ (Germany)



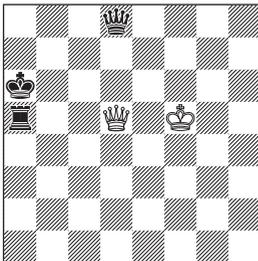
(*) H#7 (3+5)
Double Maximummer

F971 Andreas Thoma
C+ (Germany)
Andreas-pendelum



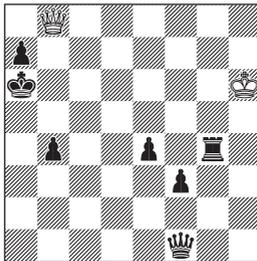
H#7.5 2 Sols (4+6)
Double-Maximummer

F972 Kostas Prentos
C+ (USA)



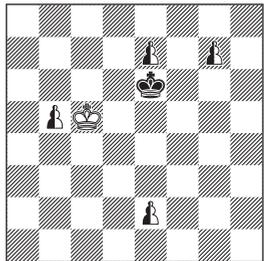
HS#2 (2+3)
b/c) Qd8→b2/b7
Masand

F973 Kostas Prentos
C+ (USA)



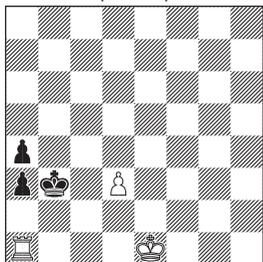
HS#3 3 Sols (2+7)
Masand

F974 Eric Huber
C+ (Romania)



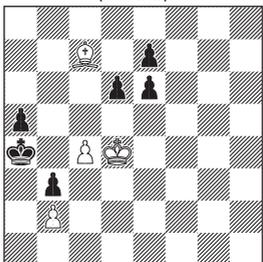
HS#3 (1+1+4)
b) nPg7→c7
Neutral Pawn b5 e2 e7 g7
Leffie

F975 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



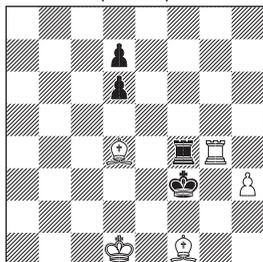
(*) H=2 (3+3)

F976 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



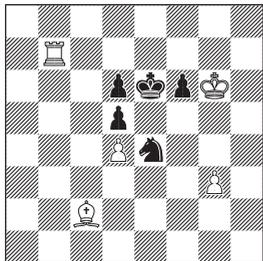
H=2 2 Sols (4+6)
b) bPe7→d7

F977 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



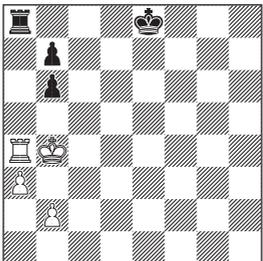
(*) H=2 (5+4)

F978 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



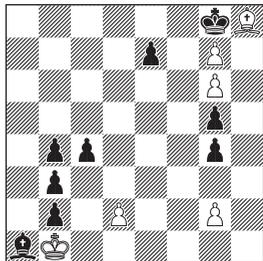
(*) H=2 (5+5)

F979 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



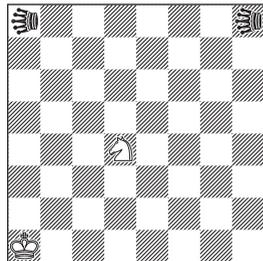
H=3 Duplex (4+4)

F980 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



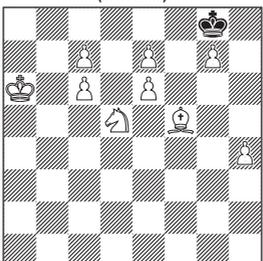
H=7 2 Sols (6+9)

F981 Sébastien Luce
C+ (France)



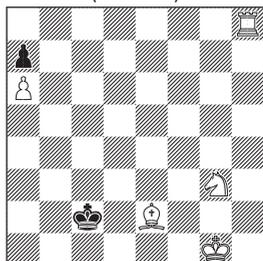
H=9.5 2 Sols (2+2)
Locust a8 h8
Antipodean Circe

F982 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



(*) SH=11 (9+1)

F983 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



SH#20 (5+2)
Transmuted Kings
Checkless Chess

Fairy

Fairy Editor

Vlaicu Crisan (Romania)

Judges 2019

Paul Raican (Romania)

Like we ended 2018, we begin 2019 with 27 original compositions. Please continue to contribute to our beloved fairy column, as we are very close in reaching a significant milestone: 1000 published originals!

We start with two direct long-movers based on zugzwang featuring Double Grasshoppers. In **F957**, the black Double Grasshopper will be allowed to play only once. In **F958** we will meet the Loco – which moves on Vao lines and captures on Bishop lines. The Loco will eventually guard g2 in the mating position while DGf5, which doesn't play at all during the solution, will be the mating piece.

We continue with 13 helpmates. Be prepared to see black pieces becoming white thanks to Masand both in **F959** and **F963**. In **F960** there are two mates on the 8th rank. **F961** exploits a particular interpretation of observation under AntiCirce rules: when the rebirth square of a paralyzing black piece is occupied, the observed white piece is unparalyzed. The presence of the mysteriously looking bPh3 in **F962** is to prevent a cook in a) 1...e8=nQ 2.Kc5 nQh5+ 3.b5 Kd6#. The same popular promotion theme occurs also in **F965** and **F966**. The Kings will get in contact in both solutions of **F964**. BackHome definition is: if a side can move a piece (King included) to the square it occupied in the initial position, it must do it, unless it is a self-check. In **F967** the black King will be mated in the corner, in **F968** must leave the 8th rank, while in

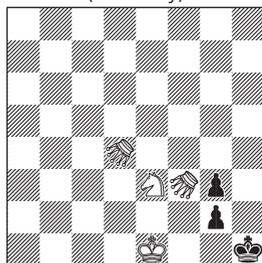
F969 must go to the edge. Both White and Black must make the longest move in Double Max – but the play isn't quite automatically obtained, as you will see in the three compositions kindly sent by Andreas.

Two out of the three helpselfmates feature Masand. Kostas shows appealing echo mates. In Eric's **F974**, look for three promotions in a) and two in b), with Black delivering Leffie specific mates by a not promoted piece. We continue with Slobodan's helpstalemates, which need no hints to be solved. Don't miss the set play in **F975**, **F977**, **F978** and Duplex in **F979**. In order to solve **F981** you have to find the final position where the white Knight is pinned by a black Locust in the back of the white King. We conclude with two serials. Please don't miss the set play in **F982**. In the final position of **F983**, the promoted black piece will go back to a7 creating a royal battery.

As usually, the comments of the solvers and/or readers are highly welcome!

Issue 83 (F912-929)

F912 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



#5 (4+3)
Double Grasshopper d4 f3

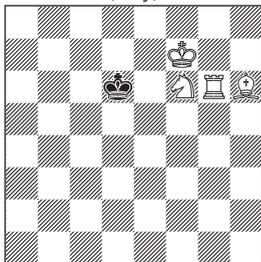
1.Ke2! Kg1 2.DGh4 Kh1 3.Sg4 Kg1 4.Sh2 gxh2 5.DGf1#

Sunouchi: Keep on as DGd4 is not to be

isolated.

Crisan: The key is obvious, as the bPg2 must not be allowed to promote. But the real key is the second move, shifting the central DG to the edge. Congratulations for finding the solution, Seiichiro!

F913 Vito Rallo
C+ (Italy)



H#2 2 Sols (4+1)
Messigny

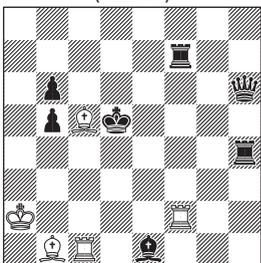
- 1.Kd6 ↔ Kf7 Rg7+ 2.Kf8 Rd7#
- 1.Ke5 Kf8 2.Ke6 Kf8 ↔ Ke6#

Sunouchi: The discovered check is quite delightful.

Inoue: Final move prevents swapping by black in both solutions.

Crisan: Lovely gem. No solver complained about the not used wR in the second solution, which would have definitely been condemned by the Western solvers.

F914 Pierre Tritten
C+ (France)



H#2 2 Sols (5+7)
Bréton

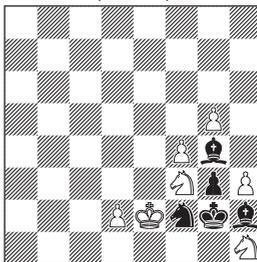
- 1.Rf5 Rcc2 2.Ke4 Rxf5(-wRc2)#
- 1.Bd2 Bc2 2.Kc4 Rxd2(-wBc2)#

Author: White Grimshaw creates specific reciprocal ecto-batteries fired by the capture of the sacrificed black piece performed by wRf2, which causes the disappearance of the front-battery piece.

Sunouchi: Vanishing discovered-checks are magical.

Crisan: Again, only Seiichiro discovered the exquisite solutions. The interesting strategy involves active black sacrifices and specific passive white suicides.

F915 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#2.5 (7+5)
b) H=2.5

- a) 1...Ke1 2.Sxh3 Sf2 3.Sg1 Sh4#
- b) 1...hxg4 2.Kxh1 Sxh2 3.gxh2 Kxf2=

Sunouchi: All knights are active in a), passive in b).

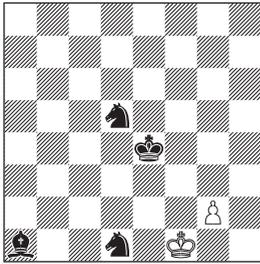
Inoue: All moves are captures in b). I could not find the mating position in a).

Crisan: Contrasting and amusing twins: after the intense cavalry activity, all the knights and the bishops disappear! Polish[ed] humour at its best.

F916

Vito Rallo

C+ (Italy)



H#3 (2+4)

Masand

b) Sd5→c4

a) 1.S1e3[g2=bP][d5=wS]+ Kf2
2.g1=Q[a1=wB]+ Ke2 3.Qg4+
Sf6[g4=wQ]#

b) 1.Sde3[g2=bP][c4=wS]+ Ke1
2.g1=Q[e3=wS]+ Ke2 3.Qf1[a1=wB]+
Sd2[f1=wQ]#

Author: Cross-checks, double check, promotion, black battery, white battery, miniature. Queen promotion on same square with different effects. Knight move on the same square with different effects. Sunouchi: Confirmation of colors is troublesome.

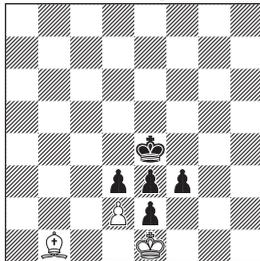
Inoue: First move would be hard to find without hint.

Crisan: In spite of the economic setting (miniature) there are a lot of pieces changing their colours in each solution. Solving Masand compositions requires out-of-the-box thinking.

F917

John Rice

C+ (United Kingdom)



H#3.5 (3+5)

Circe

b) Bb1→h1 Chameleon Circe

a) 1...dxe3[+bPe7] 2.e5 Ba2 3.d2+
Kxd2[+bPd7] 4.d5 Bb1#

b) 1...Bg2 2.fxg2[+wRh1] dxe3[+bPe7]
3.gxh1=B[+wQd1] Qb3 4.Bf3 Qe6#

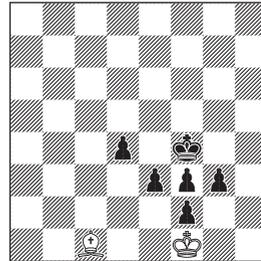
Sunouchi: Advancement of chameleons is tricky.

Crisan: Only Seichiuro solved this. In a) both captured pawns play a role in the final position, while in b) the captures contribute in transforming the Bishop to a Queen.

F918

John Rice

C+ (United Kingdom)



H#4 AntiAndernach (2+6)

b) Bc1→e1

c) Bc1→a7 Chameleon Circe

d) c)+bKd5

[Editor: c) was misprinted as "Bc1 → e7 Chameleon Circe." Many apologies to the composer and the solvers.]

a) 1.g2=wP gxf3 2.d3=wP Ke2 3.f1=wR
Rg1=bR 4.Rg5=wR Bxe3#

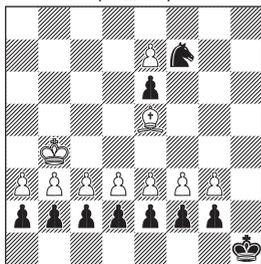
b) 1.e2=wP exf3 2.Ke5 Kg2 3.f1=wQ
Qc4=bQ 4.Qf7=wQ Bxg3#

c) 1.d3 Bxe3[bPe7]+ 2.Kxe3[wRa1] Re1+
3.fxe1=B[wQd1] Qa1 4.Bd2 Qe5#

d) 1.Ke6 Bxd4[bPd7] 2.Kf7 Bxe3[bPe7]
3.Ke8 Bxf2[+bPf7] 4.gxf2[wRa1] Ra8#

Crisan: To be enjoyed during the summer next to a lovely cup of tea. In an article published in The Problemist, John managed to show even 16 different fairy conditions using a similar piece arrangement!

F919 Sébastien Luce
C+ (France)



H#10.5 (10+10)
UltraSchachZwang
Camel f7

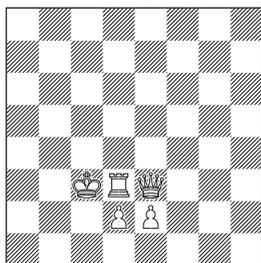
1... e8=CA 2.a1=CA+ Kb5 3.CAc8+ Kc4
4.b1=CA+ Kd4 5.c1=CA+ Ke4 6.d1=CA+
Kf4 7.e1=CA+ Kg4 8.CAd5+ CAxd5
9.f1=CA+ Kh4 10.g1=CA+ Kh3 11.CAe2+
CAxe2#

Author: C+W 10h45. 8 promotions in Camel.

Sunouchi: I was confused how to use the camel on f7.

Crisan: The promotions in fairy pieces are extensively researched by Sébastien. Together with Roméo Bedoni, he published an interesting article in Phénix 286 about the promotion records in fairy pieces using ABC.

F920 Michel Caillaud
(France)
ded. to K. Kousaka & S. Soma



h#18 (5+0)
16 Total Invisibles

1.TI~ Kb4 2.TI~ Rb3 3.TI~ d4 4.TI~
dxe5 5.TI~ exf6 6.TI~ fxg7 7.TI~ gxh8=B

8.TI~ Ba1 9.TI~ Qc3 10.TI~ e4 11.TI~
exd5 12.TI~ dxc6 13.TI~ cxb7 14.TI~
bxa8=R 15.TI~ Ra2 16.TI~ Ka3 17.TI~
Rab2 18.TIxa1! Rb1# (T1a1=black King,
only possibility!)

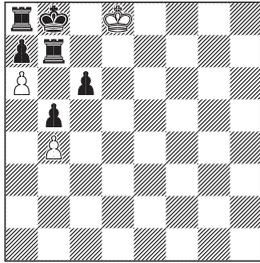
Author: 16 TIs sont nécessaires pour éviter le type de démolition suivant avec 15 TIs: les Pions blancs capturent 12 TIs; 2 autres TIs se sacrifient sur 2 pièces blanches; le Roi noir, seul TI restant, s'identifie en capturant une des 2 pièces blanches restantes et la dernière pièce blanche mate.

Editor: Junichi Inoue pointed out a cook:
1.TI-- exf3 2.TI-- fxe4 3.TI-- exd5
4.TI-- dxc6 5.TI-- cxd7 6.TI-- dxe8=B
7.TIxd3 Qxd3 8.TI-- dxe3 9.TI-- exf4
10.TI-- fxe5 11.TI-- exd6 12.TI--
- dxc7 13.TI-- cxb8=S 14.TI-- Qd8
15.Ixb8 Qxb8 16.TI-- TI-- 17.TI-- Ba4
18.TIxa4(=bK) Qb4#.

After move 15, 14 black Invisibles are captured. Move 16 shows there is a white Invisible on the board. Then the 2 remaining Invisibles are bK and wI. The Invisible capturing Ba4 at move 18 must be bK, and Qb4 delivers checkmate. Move order cannot be determined uniquely in the solution above. Move 16 can be the first move. Moves 7 and 8 can be earlier and the order of the moves of 2 wP's are freely determined. Promoted pieces can be different. Maybe I misunderstood something. (Inoue)

Crisan: Maybe the problem can be saved by changing the condition from 16 Total Invisibles into 16 black Invisibles?

F921 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



H=3 (3+6)
b) -bRa8

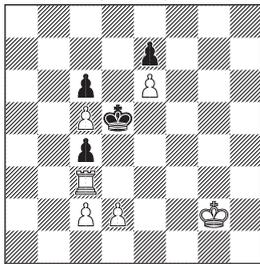
- a) 1.Rb6 Kd7 2.Rb7+ Kxc6 3.Rd7 Kxd7=
b) 1.Ka8 axb7+ 2.Kxb7 Kd7 3.Ka6 Kxc6=

Sunouchi: a8R is an obstacle for both reasons.

Inoue: Switchback of bR and wK in a).

Crisan: All solvers managed to score points.

F922 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



H=3 (6+4)
b) Pc4→d4

- a) 1.Ke5 d4+ 2.Ke4 Re3+ 3.Kd5 c3=
b) 1.Kxe6 Rf3 2.Ke5 c4 3.e6 d3=

Mizuno: En passant traps determine the move order.

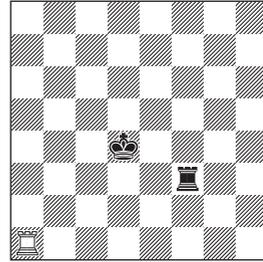
Sunouchi: Try b) 2... d3? 3...c4 4.dxc3 e.p.!

Inoue: Contrast in first two moves of bK.

Crisan: Another solver-appealing composition, in spite of the traps prepared

by the author.

F923 Andreas Thoma
(Germany)



Help-castling in 5 (1+2)
WandelSchach
Maximummer

- 1.Rf8=bB Ra4+ 2.Bb4 Ra8=bR 3.Ra1=wR
Ra4 4.Kc5 Ra1=wR 5.Be1=wK 0-0-0

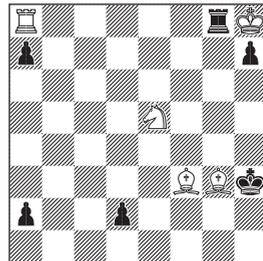
Author: I invented WandelSchach togetherwith Kurt Bacmeister in 1975.

Editor: Junichi Inoue found another entirely different solution: **1.Ra3 Rd1=wQ+ 2.Rd3 Qb3 3.Rh3 Qg3 4.Rh8=bR Qe1=wK 5.Rh1=wR 0-0!**

Inoue: Unfamiliar rule, but what to do is clear.

Crisan: Should this problem have two solutions?

F924 Eric Huber
(Romania)



HS#2 2 Sols (5+6)
Madrasi AntiCirce

- 1.Be2 a1=Q 2.Bf1+ Q:f1(>Qd8)#
1.Sc6 a1=R 2.S:a7(>Sg1)+ K:g3(>Ke8)#

Author: On the last move the black rebirths take place on the Madrasi paralysis line a8-g8 and thus bRg8 is unparalysed.

Tries: 1.Be2 a1=R? 2.Bf1# because 2...Kxg3[bKe8] is illegal, wRa8 is not paralysed. 1.Sc6 a1=Q+? 2.Sxa7[wSg1]+?? impossible because bQa1 checks

Winchloe themes: Echecs croisés, Anti-batterie, Sacrifice blanc, Déclouage indirect and Promotion.

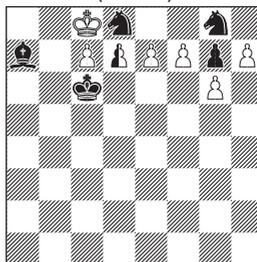
Sunouchi: Teleport S by the support of promoted R.

Inoue: Releasing bR to checkmate wK by freezing wR or bringing bQ between R's.

Crizan: Subtle motivations of solutions. Winchloé also says the problem is C+ under AntiCirce Calvet rules. The main reason is that Winchloé considers bRg8 as being paralysed by wRa8 only if the captures on rebirth squares are allowed.

Crizan: Nobody could solve this beautiful and difficult tanagra. Köko mates are usually hard to grasp.

F926 Roméo Bedoni (France)
C+



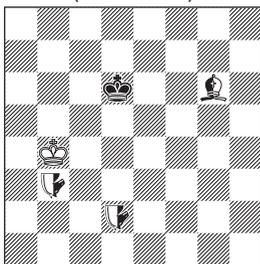
Ser!=4 (6+5+1)
Neutral Pawn d7
Wormholes d8, e8, f8, g8, h7

1. h : g8 = B[> Bh7] 2. e8 = B[> Bg8]
3. c:d8=S[>Se8] 4.d8=nR[>nRf8]! =

Sunouchi: 5.Kd8 is illegal for all other holes are occupied.

Crizan: Now that' s the whole fun with the Wormholes! In the final position two white pieces and one neutral can' t move, while another white piece is pinned.

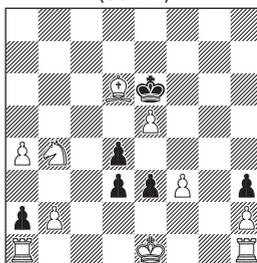
F925 Sergej Smotrov (Kazakhstan)
C+



HS#5 Köko (1+1+3)
Neutral Nightrider b3 d2
Neutral Bishop g6
b) wKd1 c) nBa3 d) bKc7

- a) 1.Ka4 nNc4.2.nNh6 Kc53.nNf7 nNe84. nNd8 Kb55.nBxe8+ Ka5#
- b) 1.nNc5 Kd5 2.nNd3 Kd4 3.nNh5 Ke3 4.nNh4 Ke2 5.nBxh5+ Ke1#
- c) 1.nNd7 Kc6 2.Kb5+ Kc7 3.nBe7 nNb8 4.nNa8+ Kd6 5.Kc5+ Kd5#
- d) 1.nNb6 nNc8 2.Kc4 nNd4 3.Kd5 Kd7 4.nNb8+ Ke6 5.nBf7+ Ke5#

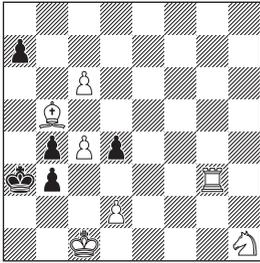
F927 Slobodan Šaletić (Serbia)
C+



Ser-H#13 (10+6)
b) Sb4→e4

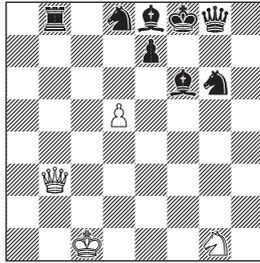
- a) 1.Kd7 2.Kc8 3.Kb7 4.Kb6 5.Ka5 6.Kxa4 7.Kb3 8.Kxb2 9.Kxa1 10.Kb1 11.a1=R12. Ra2 13.Rb2 0-0#
- b) 1.Kf5 2.Kf4 3.Kxf3 4.Kg2 5.Kxh1 6.Kxh2 7.Kg1 8.h29.h1=R 10.Rh511.Rxe5

R254 Andreas Thoma
(Germany)



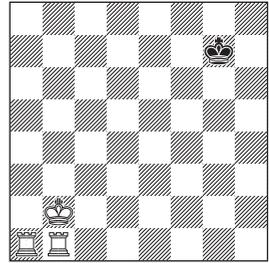
-3 & #1 (7+5)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R255 Andreas Thoma
(Germany)



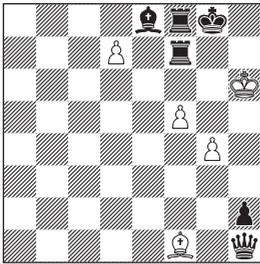
-2 & #1 (4+8)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R256 Andreas Thoma
(Germany)



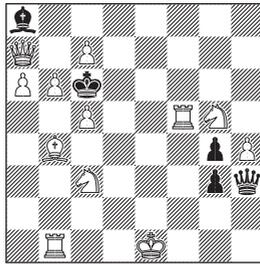
-3 & #1 (3+1)
Proca Retractor
AntiCirce Assassin

R257 Andreas Thoma
(Germany)



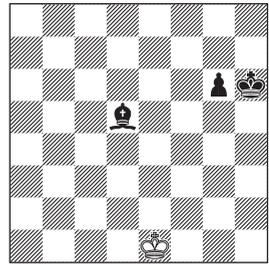
-8 & #1 (5+6)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R258 Andreas Thoma
(Germany)



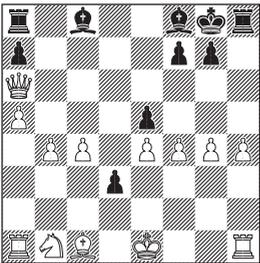
-4 & S#1 (12+5)
Proca Retractor
AntiCirce Calvet

R259 Andreas Thoma
(Germany)



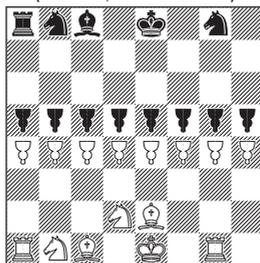
-4 & #1 (1+3)
Klan Retractor
AntiCirce Cheylan

R260 Paul Răican
(Romania)



Proof Game 36.5 (13+10)
Duelist

Michel Caillaud, Vlaicu Crisan
R261 Eric Huber
(France, Romania x2)



Proof Game 22.0 (15+13)
Berolina Pawn, Duelist

Retro

Retro Editor

Naoki Matsuzaki (松崎直樹)

Judge 2019-2020

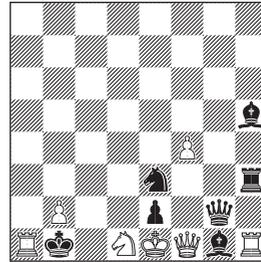
Thomas Brand (Germany)

☆今回は Retractor 6つと PG2つで計8題です。R254はまず初形に黒駒を戻させ、次に白駒が取られたことが確定するようにします。R255は8段目の黒マスのうち3つに駒があり、残った1つに戻れる駒が3つあります。R256はbKが隅に戻るように、bKが動いてチェックした形を2手かけて作ります。R257は長手数ですが、最初だけ気をつければあとは同じことの繰り返しです。成駒の数に注意してください。R258は同じ黒駒が何度も動きます。白がチェックされた局面にせずとも黒の最終手が限定される形にし続けます。R259では取られた駒の選択権は白にあります。黒が白駒を取ってダブルチェックした局面を作り、その駒を使って詰まします。PGは両方とも難解です。Duelist (別名 Duel) は、ある駒を動かしたら次の自分の手番でもその駒を動かさなければならぬというルールです。同種の別の駒では駄目で、直前に動かした駒でなければなりません。Pが成ったら成駒に、キャスリング後はKに引き継ぎます。合法手がなければ他の駒を動かして構いません。チェックの扱いは通常と同じで、ディスカヴァードチェックも有効です。R260の序盤は白がPをシングルステップで突いて黒がSを前に置いて止める、という手順が繰り返されます。R261の Berolina Pawn は、通常のPとは逆に駒を取らないときは斜め、駒を取るときは前に動きます。ダブルステップもアンパッサンも可能です。この条件で図のようなPの配置を作るには、チェックをうまく使って動かせる

駒を切り替える必要があります。最初は同色のマスのPを全て動かします。その後白駒でチェックしながら黒駒の配置を作り、黒駒でチェックしながら白駒の配置を作るという流れです。シングルステップしたPはなく、黒駒2つは初形で取られています。全体的に難しめですが、R255とR257は解きやすいと思います。解答をお待ちしております。

Issue 83 (R246-249)

R246 Andreas Thoma
(Germany)



-3 & #1 (7+7)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

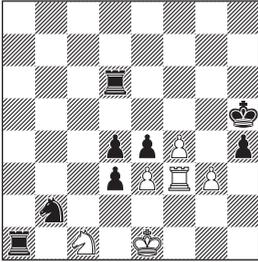
- 1. Rg8xBg3(Ra1) Bh2-g3+
- 2. Rc8xSc2(Rh1) S~c2+
- 3. Sc3-d1 & 1. Qxe2(Qd1)#

初形の白駒が4つあって候補が広い。bKがe8に逃げられないようにしたいのだが、e8が白マスだからとwRh1を戻すとチェック放置となってしまうので、先にwRa1を戻さねばならない。作意手順は、bSとbBの初形位置を塞いでからwQでbPを取って詰みという流れ。なお、wSc3はb1の駒を取れないのでチェックではない。

井上：最終手がわかると、黒のBとSの初形を塞ぎ、白Sをc3に戻すというストーリーが見える。しかしヒントなしでこの最終手を

見つけられるとは思えない。

R247 Andreas Thoma
(Germany)



-11 & #1 (6+8)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. Ke1xRd1(Ke1) Rd2-d1+
- 2. Kf1xBg2(Ke1) Bh1-g2+
- 3. Kf2-f1 Rd1-d2+
- 4. Ke1-f2 Rd2-d1+
- 5. Kf2xSf1(Ke1) Rd1-d2+
- 6. Ke1-f2 Rd2-d1+
- 7. Sa2-c1 Sd1-b2+
- 8. Kf6xPe7(Ke1) d7/f7xB/Se6(Pe7)+
(-8...Pd/f7xQ/Re6 -9. Q/Re8-e6 & 1. Kg5#)
- 9. Bf7/Bd7/Sc7-e6 Rd5-d6+
- 10. Kf5-f6 Rd6-d5+
- 11. Be8-f7/Be8-d7/Se8-c7
& 1. Kf5-g5#

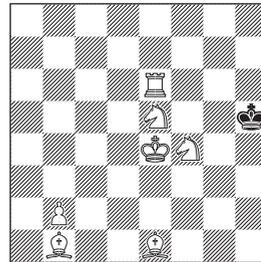
Kf6xPe7(Ke1) とすると、黒は P と R のダブルチェックを戻すために駒取りを逆算しなければならない。この白駒で e8 を塞げば wK で詰ますことができる。駒の種類選択権は黒にあるので、逆算不可能な P 以外の全ての駒に対応できなければならない。R では 1 手で e8 を塞げるので早く詰む。Q/B の場合、d7xe6(Pe7) のときに e8 から h5 に利いてしまうので、予め d1 と f1 を塞いでおく必要がある。S の場合、c7-e8 と 2 手で

e8 に戻れそうだが、e6xRd5(Pd7)+ という受けがあり、白が Ke5-f6+ とチェックを戻した際に逃げられてしまう。h1 が塞がっていれば問題ない。以上より d1, f1, h1 を全て塞いでおけば、どの白駒でも e8 を塞いで wK で詰ますことができる。bP の位置が d7/f7 の 2 通りあり、それぞれについて手数が増える駒が B と S の 2 通りで全部で 4 通りとなるが、同じように詰む。

井上：黒による e 筋での駒取りは e6 しかなく、黒 Pe4 がいるため白 Pe6 は AntiCirce では存在しえないため、取った駒は 4 種に限られる。

☆後半はほぼ正解でした。1 段目の黒駒によるチェックの場合、P に戻す受けが成立する場合がありますのでご注意ください。

R248 Andreas Thoma
(Germany)

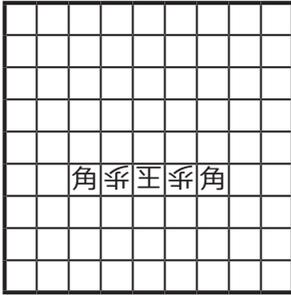


-2 & S#1 (7+1)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. a6xBb7(Pb2) Bc8-b7+
- 2. Kf5-e4 & 1. Be4+ Kg5#

wK が逃げられないように f5 に戻して wBb1-e4+ とすると、bK は g5 に逃げるしかなく、白にチェックがかかる。このままでは wRe6-e8 があるので詰みではない。そこで初形の wPb2 を使って駒取りを逆算するのだが、黒の応手が限定されるような手を探

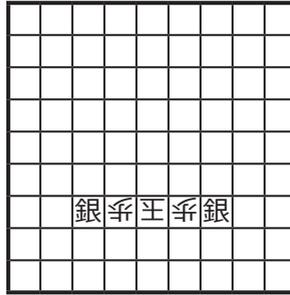
U256 DEGUCHI Nobuo
出口信男



▲ 銀

協力詰 7 手

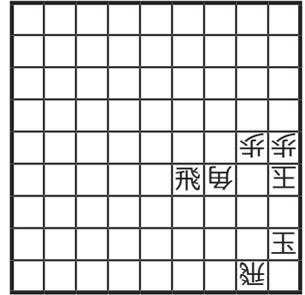
U257 DEGUCHI Nobuo
出口信男



▲ 歩歩

協力詰 11 手

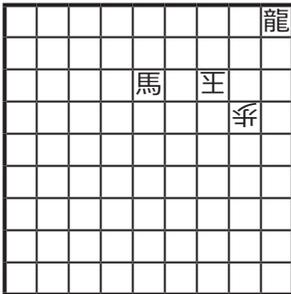
U258 KOUSAKA Ken
高坂 研



▲ 銀

協力詰 3 手
完全透明駒 2 枚

U259 SENGYOTEI
占魚亭



▲ なし

協力詰 3 手
透明 Imitator 1 枚

Shogi

Shogi Editor

AIBA Takehiro (會場健大)

Judge 2018-2020

SUDO Daisuke (須藤大輔)

【完全透明駒】

通常の透明駒に加え、先手後手等の所属も不明

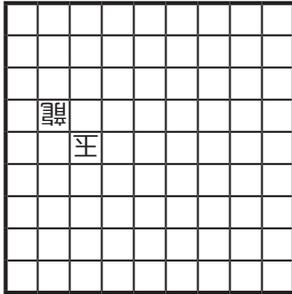
な透明駒。

【透明 Imitator】透明駒の Imitator。通常の Imitator に準ずるが、位置が不明のため、不可能であることが証明されない着手は可能な着手として扱う。詰みが証明できるとき詰み。

考え直して 19 角 28 銀に気づきました。
 星野：銀と角が逆なのがトリック。一目 28 角
 としたくなる。

U250 SENGYOTEI

占魚亭



▲ 麩 2

協力詰 7 手
 持駒に麩

94 麩、73 龍、84 麩、85 玉、
 73 麩、95 玉、85 飛まで 7 手。

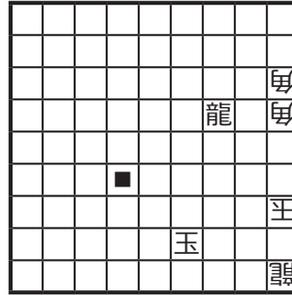
☆麩という駒（フェアリーチェスの Moose）
 を用いた詰将棋の入門編を意図して作られた
 もの。まず王手が 84 の龍を使って着地する
 ものしかないため、2 通りしかないことにな
 る。94 麩として、王手を外しつつ取られやす
 い位置に龍を運ぶのが肝心。73 に動かしてお
 き、85 麩で両取りをかけるのがその手段とな
 る。なお 94 の麩はこの時点で動く能力はない
 ため、「打」は省略した（それを書くことにす
 ると、5 手目はどのような表記になるのか分か
 らなかったというのも一因）。龍を取りながら
 端に追って 85 飛と打てば詰み。

九尾：まず、駒の動きの解釈で悩みました。「飛
 び越してから 45 度曲がって着地」というより、
 「台駒の上で 45 度曲がってから飛び越して着
 地」という動きなんです。龍を取るしかないと
 分かって、あとは子供の授業参観中に解けま
 した。

駒井：龍を取りに行けば簡単。最後はこれで詰
 んでいるの？という感じ。

U251 SENGYOTEI

占魚亭



▲ なし

協力詰 7 手
 66 Imitator

37 龍 [I69]、16 玉 [I68]、36 龍 [I67]、57 銀、
 37 玉 [I56]、48 銀生 [I47]、27 龍 [I38] ま
 で 7 手。

☆手が限られている、と作者のコメントには
 あったが、これはやはり難問。Imitator の詰
 上がりは、一般に両王手のような手段を用いる
 ことが多く、これは一見詰みに関係なさそうな
 駒を最後に動かすことで王手をかけている駒の
 利きを外すことが往々にして可能だからであ
 る。本作はその線ではなく、合駒を発生させ
 て Imitator の移動を縛ってしまうという構想。
 合駒といっても、これも Imitator 独特の出し
 方で、龍の筋ではなく Imitator の筋に発生さ
 せ、飛び道具の移動範囲を断ち切ってしまうと
 いうもの。こうして 4 手目に発生する銀合は
 逆王手でもあって意表をつく。この駒を 48 に
 生で連れてきて最終形を得る。銀が成っていると
 最終手以降 58 成銀があって逃れる。

駒井：両王手ではなく、玉 XI を一直線に並べ
 る詰め形だったのです。しかし、双玉なので
 王で詰めるのかと思ひ苦労しました。7 手にし
 ては超難問です。

誤解：37 龍 [I69]、27 金合、同 龍 [I59]、
 同 玉 [I69]、38 王 [I59]、17 玉 [I49]、27
 金迄 7 手。

として立ち現れてくるわけだが、私などは「やっぱり作意順はこうでなくちゃ」と思っ
てしまう。詰将棋病だろうか。

2nd Prize

U232 KOSAKA Ken

高坂 研

皇	我	爵	零	王	零	爵	我	皇
	継						馬	
糸	糸	糸	糸	糸			糸	糸
					糸			
				糸				
		歩	歩					
歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

▲ なし ▼ なし

Proof Game 9手

b) 66歩→65歩

a) 76歩、34歩、22角生、44歩、
45角、同歩、88角生、22角、
66歩まで9手。

b) 76歩、34歩、44角、同歩、
66歩、65角、同歩、45歩、
88角まで9手。

テンポムーブはいつまでも色褪せない魅力
的なテーマだ。普通詰将棋ではなかなかお目
にかかれない不思議な間合いの取り方がブル
ーフゲームの魅力の1つだと思う。

本作は(a)(b)の解ともにテンポの取り方
が悩ましいところだが、持駒を経由させる解
決法はShogiならではの、この手順の実現
に将棋盤を使用する必然性は万人の認めると
ころであろう。

ツインであるからには2つの解を関連させ
て評価することになる。作者は単純に終形を
似せるだけでは満足せず、手順にもこだわっ
たはずだ。当然のことなのかもしれないが、

完全限定のキッチリ感が心地よい。なかでも
特に印象的なのは双方解で登場する歩頭の角
打ちではないだろうか。対照的な一手をそれ
ぞれに盛り込むといった演出効果、細部への
こだわりが本作をツインたらしめるのだら
う。作者コメントにもある通り、「この短手
数で2解に対照性と統一性を組み込めた」こ
とが作品価値を高めているのは間違いない。
自然な終形も好印象で、将棋版ブルーゲー
ムの古典的名作として長く人の記憶に残って
ほしいと思う。

本作は易しい。手数も短く、解図時間も他
の作品に比べ短かったことは事実だが、その
ことが本作の価値を損なうものではないこと
は強く主張しておきたい。

3rd Prize

U203 UCHIDA Akira

内田 昭

皇	我	爵	零	王	零	爵	我	皇
糸	糸	糸	糸	糸		馬	糸	糸
					糸			
		歩	角	歩	銀			
歩	歩		歩	龍	歩	歩	歩	歩
				飛				
香	桂	銀	金	玉	金		桂	香

▲ 歩 ▼ なし

Proof Game 18手

76歩、42飛、33角生、44歩、
同角生、33角、66角、47飛生、
48銀、同飛生、56歩、46飛成、
47歩、58銀、同飛、57龍、
46銀、45歩まで18手。

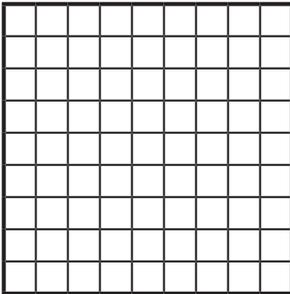
序盤の数字は推理将棋でも頻出の筋なので
勘で進められるが、本作の肝はその後にある。
本作の主役は銀であろう。意外性のある使

い方だと思う。46 地点まで銀を動かすために、先後の駒台を經由したほうがうまく事が進むというアイデアが良い。本作も高坂氏作と同様、駒台を利用したテーマになっており、Shogi でテーマを表現する必然性が確立できていると思う。

1st Honorable Mention

U223 AIBA Takehiro

会場 健大



▲飛

協力自王詰 6手

Invisible Type B 2+3

I、18 飛、17 飛、1x17、

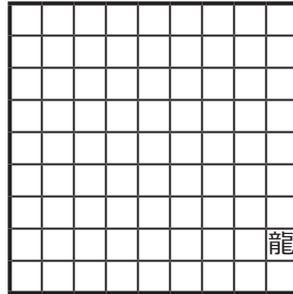
I、28 飛成まで 6 手。

形式的な評価であることは百も承知であるが、それでもやはりこの初形に言及せずにはいられない。1つの到達点であることは間違い無いはず。

姉妹作と比較するのもまた良し。下に図と作意順のみ記す。

会場 健大

(Web Fairy Paradise 83 号 2015/5)



▲なし

協力自王詰 6手

Invisible Type A 2+2

I、98 飛、I、I、

78 龍、同飛成まで 6 手。

Fairy TopIX 2015 短編部門 1 位。結果稿は Web Fairy Paradise (以下 WFP) 86 号 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/WFP86.pdf>) を参照。

『この詰将棋がすごい! 2015』の透明駒特集でも、会場氏による自作解説を読むことができる。

8 段目に飛合をすることで駒種を絞る筋を利用している点は共通している。

手前味噌で恐縮だが、この 8 段目の飛合で 9 段目の香を証明する意味付けで 1 作こしらえたことがある (WFP87 号 フェアリー入門⑦) が、それはかしこ詰。表面上は似ていても意味付けは全くの別物である。ば自系に応用するアイデアは全く思いつかなかった。

WCCC 2018 参加レポート

小林敏樹

今年も世界大会に行ってきました。今年は若手派遣プログラムへの応募者はなく、若島さんと二人だけの参加でした。やはり大勢で参加した方が楽しいので、若手・ベテラン問わず、ぜひ皆さん一緒に行きましょう。

開催地はマケドニアのオフリドというところ。マケドニアは一般にはあまりなじみのない国ですが、旧ユーゴスラビア連邦の構成国。プロブレムではヘルプメイトの大家 Janevski さんをはじめとして、多くの作家を輩出しています。

マケドニアでは、雄大な自然の景観が何より印象的でした。スコピエ空港からオフリドまで3時間ほどひたすら山の中を走り、ようやくオフリド湖と市街が現れた時は、なんだか別世界に来たような気がしたほどです。

四方を山に囲まれたオフリド湖は透明度が高くとても美しい湖で、多数の教会など有名な旧市街とともに世界遺産に登録されています。大会期間中に用意されたいくつもの観光プランを楽しみ、ホテル前のビーチで連日泳いだりして、すっかりリゾート気分に入った1週間でした。



(オフリド湖畔の聖ソフィア教会)

■オープンソルヴィング

オープンの問題は難しかったようで、優勝した John Nunn が 60 点満点中 46.5 点という成績。

若島さんは 28.75 点 (52 位/87 人)、小林は 19.5 点 (75 位) と冴えませんでした。

第 1 ラウンド、第 2 ラウンドそれぞれの #2 を紹介しておきますので、お試しください。

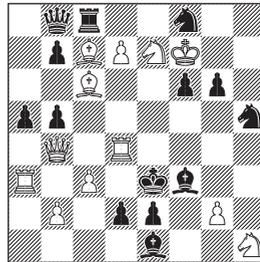
Almir Zarur

Open① (União Brasileira de Problemistas 1990-91) 3rd Pr



#2 (9+12)
(version)

Open⑦ Viktor Syzonenko
Phénix 1990



#2 (12+14)



(オープンソルビング会場風景)

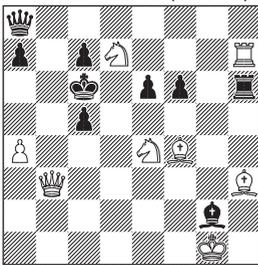
■ WCSC

解答選手権の問題を簡単に振り返ってみます。

1R

WCSC① László Lindner

Hlas l'udu 1980 (version)



#2

(8+9)

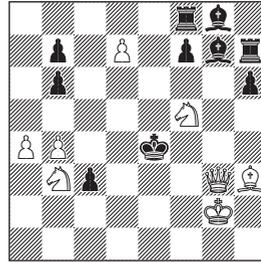
ダブルスレットがかかる手が4通りあって、そのうちの1つが正解。…というようにクリアに見極めることができず、思考が混乱して後回しにしていたら時間切れになった。



(WCSC 会場風景)

2R

Otto Fuss
WCSC④ Ferdinand Möller
Münchener Zeitung 1928



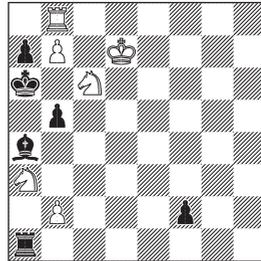
#3

(8+10)

キーに気が付いた時は興奮したが、残念なことにすでに終了間際で部分点のみ。もう少し時間が欲しかった。

3R

Martin Minski
WCSC⑦ (Original for
Československý šach 2019)



Win

(6+6)

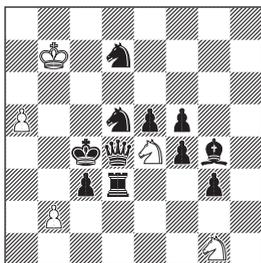
初手は 1.Rf8 で決まりだろうと思ってその先をずっと考えていたが、いきなり違っていた。

ここまでが1日目。

若島さんは絶対調で、余裕の満点。1日目の満点解答者は全部で9名でした。

4R

WCSC① Toma Garai
Thema Danicum 1998 1st Comm

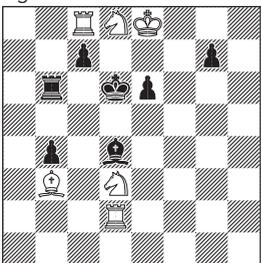


H#3 (5+11)
3 solutions

H#3ながら、意外な難問。思考の盲点に入ってしまったのか、若島さんも John Nunn も 1 解のみだった。今冷静に振り返れば、決して見えない手順ではないのだが…。

5R

WCSC⑭ Jean-Claude Broggia
diagrammes 1995 2nd Comm

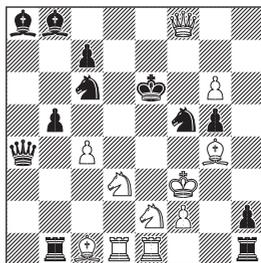


#5 (6+7)

白 R と黒 B の対決もの。いかにして B を無力化するか。

6R

WCSC⑰ Tibor Szabó
Probleemblad 1991



S#3 (11+12)

スレットは見えやすいはずなのに、見当違いなことばかり考えていて、これも気付いた時には時間不足。

2 日目は、各ラウンドの 3 問目が異様に難しい問題で、上位陣で差が付き難い選題だったように思います。

若島さんは個人戦 7 位の好成績で、上で引用した H#3 が解けていれば、2 位と同得点になるところでした。シニア部門ではタイムの差で John Nunn に次ぐ 2 位と、これは例年どおり。

私は、例によって時間不足による取りこぼしが多かった。吉岡真紀さんからは「小林さんの課題は部分点による失点をなくすことです」と忠告されていたのですが、手が見えないことにはどうしようもありません。

(団体戦) 19 か国

- 1 位 Poland 151.5 点
- 2 位 Russia 151.25 点
- 3 位 Great Britain 144.75 点
- 15 位 日本 113.5 点

(個人戦) 82 名

- 1 位 Piotr Murdzia 76.5 点
- 2 位 Kacper Piorun 75 点
- 3 位 Tomas Peitl 74.75 点

7位 若島 正 71.5点
65位 小林敏樹 42点

■若い世代へ

今年のWCSCではジュニア選手の活躍が顕著でした。個人で4位に入ったDanila Pavlov（2年前のレポートで紹介した時はまだ子供だった！）は15歳で、ロシアが僅差で団体戦2位になる原動力となっていたし、個人5位もウクライナの若手選手でした。

解答者として参入してくる若手は、チェスの実戦強豪であることがほとんどのようで（エンドゲームの得点を見ればわかります）、純粋にプロブレムから入ってくる例は少ないようです。

そこで、若手を対象とした創作コンテスト「YCCC」を主宰しているMarjan Kovačevićが中心となって、いかにして若手をプロブレムに興味を持たせるかを検討する委員会が今回設置され、若島さんも委員に加わったそうです。

詰将棋の世界では、ネット上で多くの有名作品を見ることができ、将棋ソフトにより余詰検討が容易になったこと、ツイッター上での自作発表やスマホ詰パラという新しい発表媒体が登場したことなどにより、詰将棋創作の裾野が大きく広がって、有望な作家が数多く現れてきています。なかでも、高校生、中学生さらには小学生(!)がとても新人とは思えない高度な作品を発表しているのを見ると、新しい時代になったのだなあと感じます。

プロブレムの世界でも、全世界的に若手の参入が増えて、新たなブームが到来することを期待したいと思います。

Open ①

1.Sd6? Sf2!
1.Sc3! (2.Se4#)
1...fxe3 2.Qb5#; 1...Sf2 2.Sa4#; 1...Sf6
2.Qc4#; 1...Kd6 2.Qxb6#

Qa6の利きを通す手だが、ついSd6とこちらに捨てたくなってしまふところ。

Open ⑦

1.Bxf3? (2.Sd5#) Sf4!
1.Bb6? (2.Rd6#,Rd5#,c4#) Be4!
1.Qd6? (2.Rd3#,c4#) d1=Q,R!
1.Qc5! (2.c4#)
1...Sf4 2.Rd6#; 1...Be4 2.Rd5#;
1...Bd5+ 2.Sxd5#; 1...d1= ~ 2.Rxd1#;
1...b4 2.cxb4#

Qでバッテリーを作る強力な手がキー。
Rd4が縦に3通り動く。

WCSC ①

1.Sexf6? (2.Bxg2#,Qb5#) e5!
1.Sdxf6? (2.Rxc7#,Qb5#) Qb8!
1.Sdxc5? (2.Rxc7#,Qxe6#) Qc8!
1.Sexc5! (2.Bxg2#,Qxe6#)
1...Bd5 2.Qb5#
1...Bxh3 2.Qf3#
1...Qg8 2.Qb7#

ダブルスレットも作品のテーマとなるという一例。スレットが二つあるけどおかしいなあ、と思っているようではいけません。

WCSC ④

1.Se3? (2.Bf5#) Kd3 2.Bf5+ Ke2
3.Qf2#; 1...f5!
1.Kf1! (2.Se7 (3.Bf5,Bg2#))
1...Bf6 2.Se3 (3.Bf5#)
1...Be5 2.Qg2+ Kd3/Kf4 3.Qe2#/Qg4#
1...f6 2.Bg2+ Kxf5 3.Sd4#
1...Re8 2.dxe8=Q+ Be5/Kd5 3.Qexe5#/

Se3#

1...c2 2.Sd2+ Kd5 3.Qd6#

1...Kd5 2.Se3+ Kc6/Ke4 3.b5#/Bf5#

1.Se7? で 2.Bf5# を狙うと 1...f5 の受けがある。そこで、Bg2# を見せて K を f1 に移動しておくのがキー。同じようでも、1.Kh1 だと 1...Be5 で詰まない。

WCSC ⑦

1.Kc7! (1.Rf8? Kxb7 2.Rb8+ Ka6)

1...f1=Q 2.Rf8! (2.Sb4+? Ka5 3.Rf8? Rc1+! +-)

2...Qxf8 3.b8=S+! (3.Sb4+? Ka5 4.Sc6+ Ka6)

3...Qxb8+ 4.Sxb8+ Ka5 5.Sc6+ Ka6 6.Sc2! (6.b4? Rc1! +-)

6...Bxc2 (6...b4 7.Sxa1 +-) 7.b4 (8.Sb8#)

1.Rf8? と焦っては Kxb7 とされてダメでした。Rc1 を予防する 6.Sc2! が最後の決め手。

WCSC ⑩

1.Qe3 Sh3 2.Kd4 bxc3+ 3.Kxe4 Sg5#

1.Se3 Sc5 2.Kd5 Sxd7 3.Ke4 Sf6#

1.Re3 Sxg3 2.Kd3 Sh1 3.Ke4 Sf2#

1 解目はすぐに見え、簡単そうに思ったのですが…。初形で e4 にいる S をどかし、K がその地点に行くと詰むという構成は確かに見えにくいかも。

作品のテーマとしては、黒の初手で 3 種の駒が e3 をセルフブロック。

WCSC ⑭

1.Rf2? (2.Rf7 (3.RQ7#)) Bxf2!

1.Re2? (2.Rxe6#) e5!

1.Rc2! (2.Sf7#) Bc3 2.Rf2 (3.Rf7 (4.Rd7#)) Bf6 3.Re2 (4.Rxe6#)

3...e5 4.Rc2 (5.Sf7#) Bxd8 5.Rxd8#

3...Be5 4.Rxe5 (5.Rxe6#)

1.Rc2! Bc3 と呼び出してから 2.Rf2 とするのが手順。この種の #n としては素直な作品。

WCSC ⑰

1.Bb2! (2.Qf7+ Kd6 3.Be5+ Sxe5#)

1...Rxb2 2.Sd4+ Kd7 3.Se5+ Sxe5#

1...Kd7 2.Se5+ Ke6 3.Sd4+ Scxd4#

1...Qa1 2.Sef4+ Kd7 3.Sc1+ Scd4#

いきなり 1.Sd4+ Kd7 2.Se5+ Sxe5+ は e2 に退路が空いてダメ。この時に e2 がふさがってれば…と考えて 1.Bb2! のキーを R で取れないことに気付く。

1...Kd7 の変化では S を跳ねる順番が逆になり、1...Qa1 の変化では S を違う場所に跳ねるのが楽しい。



(オフリッド湖遊覧船観光)

WCCC 2019 のお知らせ

今年の世界大会は、8月17日から24日までの1週間、リトアニアの首都ヴィルニウスにて開催されます。すでに公式HPが立ち上がっていますので、詳しくはこちらをご覧ください。<http://www.sachmatija.puslapiai.lt/wccc2019/>

参加申し込みは6月1日までです。参加ご希望の方は、**4月15日**までに、若島までご連絡ください。また、今年も若手派遣プログラムを組みますので、p.36をご覧ください。ぜひご応募を。期待しています。

18th Japanese Sake Tourney

Award

Theme: H#2 with Total Invisibles

Any other fairy pieces and/or conditions are not allowed.

Judges: Tadashi Wakashima, Toshiki Kobayashi

Definition

Total Invisible (derived from the already introduced Invisible) is a piece which stands somewhere on the board, but whose color, identity and whereabouts are not known. The real identity of Total Invisible is any ordinary piece (including K if there is no K on the board). It is assumed that the initial position and the sequence of moves must be legal after the true identity of every Total Invisible is revealed. After all aspects of a Total Invisible are revealed, it becomes visible and turns into an ordinary piece. In an initial position, only the total number of Total Invisibles is given.

We denote a Total Invisible move simply by TI-- (we don't know which Total Invisible moved to what square) and a capture by a Total Invisible by TIXd2 for example (in this case we know at least the Total Invisible moved to what square). A capture of a Total Invisible is written as a capture if the capture can be proved. "Check" is ascertained only when the move is check in an ordinary sense in every possible configuration of Total Invisibles. Similarly, "checkmate"

is ascertained only when the move is checkmate in an ordinary sense in every possible configuration of Total Invisibles.

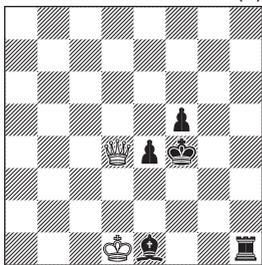
We received 28 entires. The standard is very high.

First, we must apologize for the ambiguity in the definition which caused confusion to some composers. In the Total Invisible system as well as the Invisible system, the easiest way to grasp the notion intuitively is to imagine what happens on the board where some pieces are invisible. Nothing happens there when a Total Invisible captures an opposite Total Invisible or simply moves to somewhere. Thus, both cases should be written as TI--, not TIXa1 even when we know there is a Total Invisible on a1 (in other words, we cannot claim the capture of a Total Invisible without proof).

And last but not least, our special thanks goes to Shinich Soma and Ken Kousaka, who checked the entries and found innumerable cooks, and also to Thomas Maeder, who helped us a great lot by achieving a partial computer testing of Total Invisibles. René J. Millour, the leading Invisible specialist, gave us an invaluable comment on Total Invisibles. In his opinion, Total Invisibles is superflous and Invisibles will suffice.

Now we move on to the award.

Michel Caillaud
Ohrid 2018 Sake 1st Pr (V)



H#2 (2+5)

- a) 2 Total Invisibles
b) 3 Total Invisibles

a) 1.Bg3 Tixg3 [TI on f1 or g1. wTIg3 can be a wS from f1, not e2, h5.]

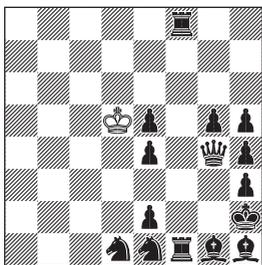
2.Rg1! [TI on f1, TIg3=wRg3!] Qb8#

b) 1.Bf2 Tixf2 [TI on f1 or g1. wTIf2 can be a wS from g4, not d3, h3.]

2.fxg4 [white TI on g4, TI f2=wBf2!] Qf6#

Almost perfect ODT. Who can ask for anything more?

Ofer Comay
Ohrid 2018 Sake 2nd Pr



H#2 (1+15)

- b) -Pg5
3 Total Invisibles

a) 1.R1f5 Tixg4 [TIg4 ≠ Q,B,P]

2.Rd8 [TI on d6 or d7; TIg4=wR]

Tixg1# [It cannot be 2...Rg3xg1

because W1 must be wRg3xg4. Therefore, TIg1=wQ/B.]

b) 1.R8f2 Tixf1 [TI f1 ≠ Q,R,P]

2.Qg8 [TI on e6 or f7; TI f1=wB]

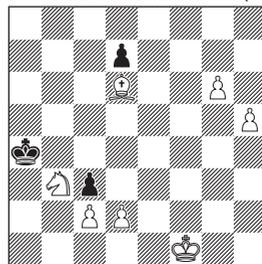
Tixh3# [It cannot be 2...Bg2xh3

because W1 must be wBg2xf1.

Therefore, TIh3=wQ/R.]

A lot of complex ideas are tightly packed here. A subtle point is why the solution in a) does not apply in b). (It is because TIg4 can be Q/R and remains invisible, and so W2 Tixg1 can actually be TIg4(=R)xg1.) Great ODT with dynamic play.

Manfred Rittiesch
Ohrid 2018 Sake 3rd Pr (V)



H#2 (7+3)

- 2 Total Invisibles
b) Pg6→d4

a) a) 1.Tixh5 Ke2 2.Tixg6 [TI=bQ or bB, another TI stands on f3 or g4.]

Tixd7# [TI=wBg4 and 2...Bxd7#. bTI=bQ.]

b) 1.Tixd2 Kf2 2.Tixd4 [TI=bR and another TI stands on e2.]

Tixc3 [wTI=S.]

2x2 Total Invisibles turns out to be QRBS. Especially noteworthy is the subtle differentiation of Q-B in a) and

Q-R in b). An excellent problem.



H#2 (7+9)
15 Total Invisibles

1.Tixb4 Qd6 [1.cxb3 e.p.] 2.Kc8 (=0-0-0) Ra8#

7+9+15=31 and it follows that only 1 piece is captured. The capture occurred on the g-file. We consider the two possibilities.

(I) White captured.

Considering the presence of bR on a8, the capture must be f5xQg6. All the other Ps are on their originals files. Thus wPd2, wPe2, bPb6, bPh7. c-file Ps are wPc3 and bPc4.

White's last move before the diagram is Pb2-b4, so wBc1.

2.Kc8 (0-0-0) ensures wSd7 and bRa8
2...Ra8 ensures wPa2 and bPa5.

Another wR cannot get out from the left-hand corner, so wRb1.

To prevent the check to wK, wBc2 and bBd4 are necessary. Therefore, White's gP must stand on g4, not g2.

The revealed position is shown on the left.

(II) Black captured.

The capture must be h6xg5 and the

captured piece can be wR/B/S.

The similar deduction will lead to the presence of wBc2 and wSd7, so the captured piece must be wR, but this is impossible because the wR cannot get out to be captured on g5.

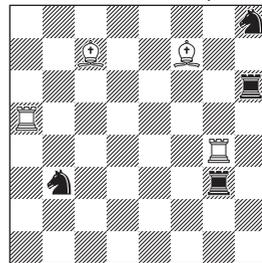
Now we can conclude that the revealed position shown here is the only possibility.



(16+14)

All the 15 Total Invisibles become visible! An amazing feat by one of the Japanese Invisible experts.

Michel Caillaud
Ohrid 2018 Sake Sp. Pr



H#2 (4+4)
24 Total Invisibles

1.Ra6! Rga4! 2.Ra8! Rh5!#

Composer: Couple of white Pawns+black Pawn stands on each column.

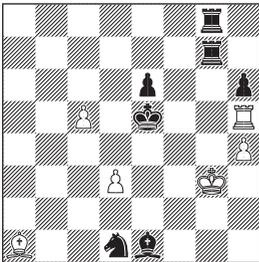
The moves sweeping 3rd, 4th and 5th ranks determine some couples: wPb2+bPb7; wPc2+bPc3; wPf2+bPf3; wPg2+bPg7. White Bishops went out: wPd3+bPd7; wPe3+bPe7. Black Bishops had to stay home: bBc8; bBf8. wPa is on a2 or a3 (bP on a3 or a4). wRs went out through h3 and bRh8 through h6: wPh4+bPh5. Black King could not go behind white Pawns. Only possible remaining square for black King is h7! Last move of the solution is Ra5 × Ph5, mating bKh7! (wPh4 prevents sQh(4) × Rh5)



(12+13)

Simple but precise logic behind the solution. A surprising flight of imagination!

Michel Caillaud
Mate by Invisible Hands
Ohrid 2018 Sake 1st HM (V)



H#2 (6+7)
3 Total Invisibles

1.TI-- TI-- 2.TI-- TI--#

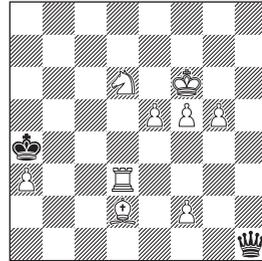
Composer: Solution as written is the idea... (I couldn't resist reference to a short story by John Dikson Carr "Death by Invisible Hands"...).

Only legal combination allowing the sequence : wRb2, bRf2, wPg5. with solution : 1.Rf4+ Rf2+ 2.Rd4 g6#

Mirror combination : wRd4, bRf2, bPg6 with 1.g5 Rf4+ 2.Rb2+ Tf2?? leads to illegal position (illegal check by wRh5 in diagram position).

Another impossible crime from this composer.

Michel Caillaud
Ohrid 2018 Sake 2nd HM (V)



H#2 2 sols (9+2)
2 Total Invisibles

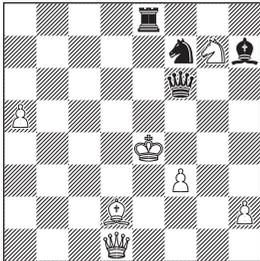
1.Qa8! fxc3! [bTI on g3]
2.Qe4 TIXe4# [TI = wR/Q from e1-e3]
1.Qa1! fxe3! [bTI on e3] 2.Qd1 TIXd1#
[TI = wB/Q from e2-h5]

Composer: Sweeping moves by black Queen. Diagonal-orthogonal echo.

P captures in W1 exclude the possibility of S captures in W2. Beautiful correspondences between the two

solutions. An exemplary work.

Ofer Comay
Ohrid 2018 Sake 3rd HM (V)

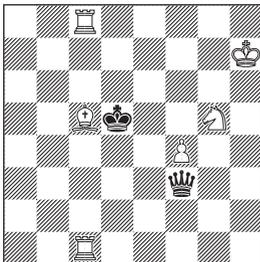


H#2 2 sols (7+4)
3 Total Invisibles

- 1.Re6 [TI on e5] Qg1
- 2.TIh2 [TIh2 ≠ bK, thus TIg6=bK and the third TI stands on g2-g5. TIh2=bB and 2.Be5xh2+.] TI--# [TI=wSg4 and 2...Sg4-e5#]
- 1.Bg6 [TI on f5] Bb4
- 2.TIxa5 [TIa5 ≠ bK, thus TIe7=bK and the third TI stands on c5-d6. TIa5=bR and 2.Rf5xa5+.] TI--# [TI=wSd6 and 2...Sd6-f5d#.]

A daring attempt to checkmate by Invisible moves. The trick lies in crosschecks, as you can see also in Michel's 1st HM. Supurb ODT.

Kjell Widlert
Ohrid 2018 Sake 4th HM

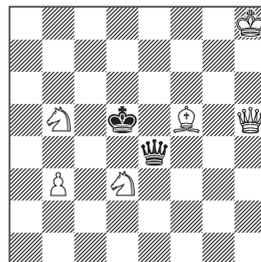


H#2 2 sols (6+2)
3 Total Invisibles

- 1.Qh5 [TI on h6] Rd8
- 2.Qf7 [TI on g7] Rd6# [TI on d6 and 2...Rxd6#]
- (Not 1.Qh5 Rd1? 2.Qf7 Rd4#?? because TIg7 can be bB and 3.Bxd4+!)
- 1.Qh3 [TI on h4-h6] Rd1
- 2.Qf5 [TI on g6] Rd4# [TI on d4 and 2...Rxd4#.]
- (Not 1.Qh3 Rd8? 2.Qf5 Rd6#?? because TIg6 can be bR and 3.Rxd6!)

This nice problem shows how the effect of dual avoidance can be shown in the Total Invisible system. Very instructive.

Kjell Widlert
Ohrid 2018 Sake 5th HM

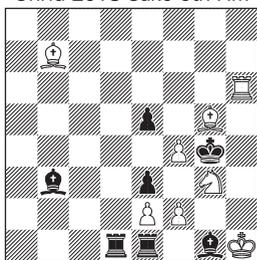


H#2 (6+2)
4 Total Invisibles
b) Sb5→d7

- 1.Qe7 [TI not on e5] Sc5 2.Qh4 [TI not on g5] Be4#
- 1.Qb4 [TI not on d4] Qd1 2.Qe1 [TI not on d2] Sb4#

None of the Total Invisibles are revealed, but the point is that bQ's trajectory ensures the final doublecheck. Simple but beautifully done.

Ricardo Vieira, Ofer Comay
Menachem Witztum, Paz Einat
Ohrid 2018 Sake 6th HM



H#2 (8+7)

5 Total Invisibles

b) Pe5→h3

a) 1.Rd8 [TI not on d2, d4] Rh2 [TI not on h2, h4]

2.Ra8 [TI not on a8] Bf3#

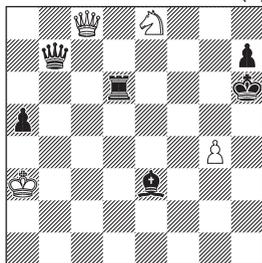
b) 1.Bc2 Bg2 [TI not on g2, f3]

2.Bh7 [TI not on f5, g6, h7] Rh4#

Again, none of the Total Invisibles are revealed. The motivation behind the solutions is to rob Black of his "invisible" guardsmen (i.e. bSd2/Sd4/Sh2/Sh4/Qa8 to guard the square f3 in a), and bSf3/Sh2/Sf5/Sg6/Qh7 to guard the square h4). This problem reminds us of Ricardo's 1st Prize winner of the 9th Sake Tourney in 2009.

Commendations without order:

Michel Caillaud
after Ken Kousaka
Ohrid 2018 Sake Comm (V)



H#2 2 sols (4+6)

3 Total Invisibles

1.Qe7 Qa6 2.Rd3 TIXe3# [TI=wBb6 and 2.Bxe3#]

[2 remaining TIs on b4 and b3 or c3]

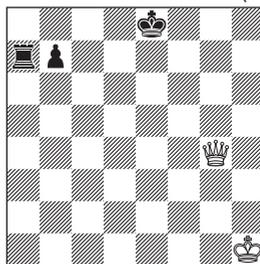
1.Qf3 Qc1 2.Bc5 TIXd6# [TI=wRd2 and 2.Rxd6#]

[2 remaining TIs on b3 and b4]

Composer: Black and white battery formation. Diagonal-orthogonal echo.

Clear advancement on Ken Kousaka's example by making W1 as ambush moves.

Michel Caillaud
Igor Vereschagin
Ohrid 2018 Sake Comm (V)



H#2 2 sols (2+3)

2 Total Invisibles

1.Kc8 [=0-0-0; TI = bRd8; TI between g4 and d7] Qd7+ [black TI on d7]

2.Kb8 Qxd8#

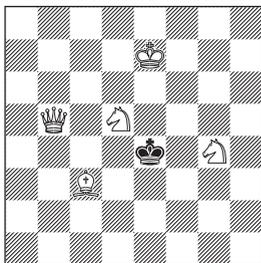
1.bxc6 [white TI onc c6] Qc8

2.Rf7 [TI on d8] TIXc6# [TI = wSd8 and 2.Sxc6#]

Composers: The Total Invisibles are black in first solution, white in second solution!

Who can achieve 2w/1w+1b/2b split of 3 solutions with 2 Total Invisibles?

Kjell Widlert
Ohrid 2018 Sake Comm



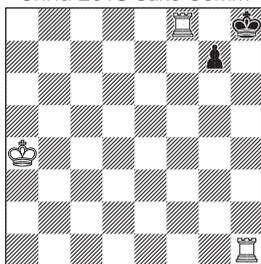
H#2 2 sols (5+1)
b) Sg4→g1

1.Kxd5 [TI on c5] TI--
2.TI-- [bTI cannot move from c5; thus, W1 must be discovered check, and TI must move into c5 to prevent check.] Sf6#

1.Kd3 [TI on c4] TI--
2.TI-- [bTI cannot move from c4; thus, W1 must be discovered check, and bTI must move into c5 to prevent check.] Qb1#

A curious case of FTL shifting of Total Invisibles.

Kjell Wiedlert
Thomas Maeder
Ohrid 2018 Sake Comm



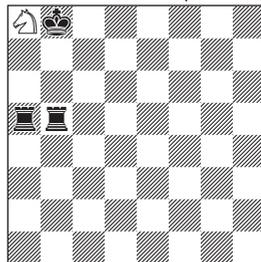
H#2 (3+2)
2 Total Invisibles

1.TI-- TI-- 2.TI-- TI--#

Composers: B1+W1 show that there is one wTI and one bTI. After B1 it is clear one is on g8 and one on the h file. If g8 = bTI, the move 2.TI~ is not possible. So there is a wTIg8 and a bTIh2...h7. W1 is checking, so B2 is only possible if W1 unpins the bTI. So there is either a wSg8 and a bB/Qh7, or a wBg8 and a bSh6. In all cases, W2 is a mating move from the h file.

The same idea as Michel's 1st HM, but this is a much simpler way to achieve it by using only two batteries.

Michel Caillaud
Ohrid 2018 Sake Sp. Comm



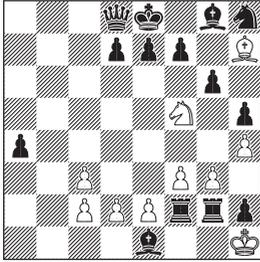
H#2 (1+3)
28 Total Invisibles

1.Rb1! [wPb6, bPb7] Sc7
2.Ra8! TIxa8# [wPa2,bPa3 TI=wR/Qa4 and 2.R(Q)xa8#]

Composer: Some constructional variations are possible. For example wPb5 (or wRb1) ; wSc7; bRa8 with interesting switchback 1.Ra5! (Ra4?, Ra6?) 2.Ra8, but I like better the striking position with 2 black Rooks revealing a couple of Pawns each (also 1+3 is more economical than 2+2...).

The record is most probably unbreakable.

Andrey Frolkin
Igor Vereshchagin
Ohrid 2018 Sake Sp. Comm



H#2 (10+14)
2 Total Invisibles

- 1.TIxh7! TI--! [TIh7=bS and wTI=Pa3.
As for the reason why, see below.]
- 2.Sf8 Sg7#

There are $10 + 14 = 24$ visible pieces on the board. Moreover, there are 2 invisible ones. $24 + 2 = 26$. Black made 5 captures, all on dark squares: $c7xd6xe5xf4xg3xh2$ while White made 1 capture: $b2xc3$; $26 + 5 + 1 = 32$ --- the total balance of the position is closed. The TIs include the white a-pawn and another black piece. wTI must stand on a2 to make a move $1...a3$.

Suppose $bTI=Q$. Retract: (...)
 $-5.Sg1-h3 Rf1-f2 -6.h3-h4 Bf2-e1 -7.??$
--- retrostalemate for White. In the solution, i.e. after $1.TIxh7$, the position can only be released by using a bS as a shield on g1 while its white counterpart (S) makes the waiting retro moves.

Main interest here is in the retroplay, rather than in Total Invisibles.



(Sake Tourney 表彰式)

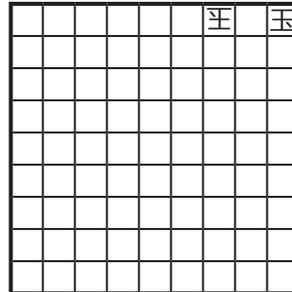
Problem Paradise Informal Tourney Award Shogi 2015-17

(Continued from p.41)

Commendation

U238 OGURA Anne

小倉 杏



▲ 香

背面協力自玉詰 4 手

Invisible 0+1

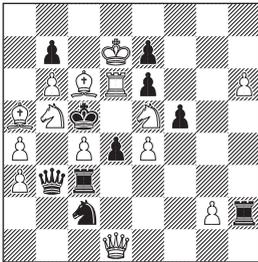
22 香、I、21 香成、Ix21 まで 4 手。

透明駒の創作・検討は難しい。現状、機械検討の可能性から最も遠いルールの中の 1 つではないだろうか。そこへフェアリールールを追加していくとなると更に制御が難しくなるはずだが、本作はシンプルにまとまっている。

えにくい手でした。

続いて2問目。# 3は練習でも30分かかった問題があったので苦戦を予想していましたが、問題を見ると14+10とこれまた駒が多い。

Cat1-2 Joe Bunting
To Alain White 1945

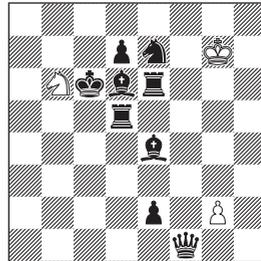


#3 (14+10)

駒は多いですが動かせる駒は割と限られていて答えの1.Kc7はすぐに浮かびましたが、何を狙っている手なのかわからず苦戦。しばらくして2.Rxd4に気づき、あとは変化を書いて解決…と思っていたら落とし穴がありました。解答を見ると1...Rch3と不思議な手が1つだけ書かれています。2.Rxd4には2...Qg3!という手があり、e5のナイトはピンされて動けません。対する正着2.Nxd4もお見事。この同一線上でルークとクイーンを動かすような手筋を「プリストル」と呼ぶそうで、プロBLEM初心者の中には勉強になることばかりです。さすがにこれは盲点だったようで、日本人の解答者でこの手が見えた方はいなかったようです。

他は解けそうな問題から考えたかったので4問目のヘルプメイトへ。

Cat1-4 Dieter Müller
Rolf Wirhagen
Problem-Echo 1995 1Pr



H#4 2 sols. (3+9)

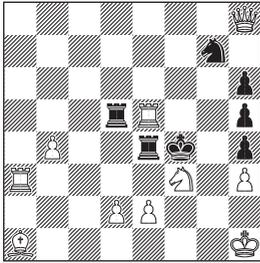
白の駒が3つと少ないので手も限られて簡単そうです。黒のキングを白のポーンに近づけて、逃げ道を塞いでナイトでメイト、ポーンはg3とg4に進めるパターンで2解、すぐにわかりました…が私はこの問題を解くことが出来ず。実は最終形は黒キングをe5に運び、4.Nc6#という形なのですが、この問題の2解の対照的手順には前述のポーンの動きだけでなく、このNc6を可能にするためにe7のナイトを取るかd7のポーンを取るかというパターンがありました。思い返すと練習でもそうでしたが、この「移動してない駒を取る」動きがどうも苦手で詰将棋にはあまりこういう手は出てこないの、ここはプロBLEM経験の浅さが出てしまいました。これもまた勉強です。

このヘルプメイトに時間を取られていたらRound1では他の問題は少ししか考えられず、あっという間に前半2時間が終了。

そしてRound 2。7問目、今度の# 2は比較的早くクリアしました。

すぐに8問目へ。7問目もそうでしたが前半の# 2、# 3に比べると駒が少ないです。

Cat1-8 Otokar Votruba
BCM 1936 4HM



#3 (10+7)

g3が空いているので塞がなければなりません、手が限られているので考えやすいです。正解手の1.Nd4はe5のルークが取られる形ですが、あえて取らせるのがいかにもといった感じでこちらも比較的早く正解にたどり着きました。クイーンという強い駒があるからこそこういった手が成立するのかなと思いますが、詰将棋だとこのようなルークの見捨て方はなかなか真似出来ないのが感心しました。あとは黒の応手が多いので書き落とさないかだけしっかり確認して次の問題へ。

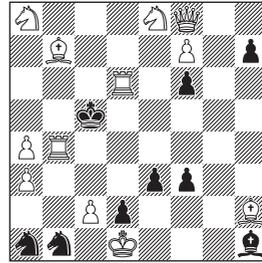
10問目、ヘルプメイトを考え始めますが、複雑すぎて断念。解答を見ても私にはすぐには浮かばなさそうな手順でした。

9問目に戻り、エンドゲームを考え始めました。苦手意識があるのであまり時間を割かずになんとなく手順を書いてみましたが1手目からの外れ。エンドゲームの問題はチェスの実戦経験が少ない私には厳しいジャンルなので、ISCが終わったあとも練習しています。

11問目は#4。こちらも少し考えましたが、また駒を取る手が盲点に入りました。この点も課題となりそうです。

Round 2で少し多めに時間を割いてみたのがラスト12問目のセルフメイト。

Cat1-12 Venelin Alaikov
Thema Danicum 1998 2Pr



S#5 (12+9)

白のキングをメイトにする形としては、Nc3#, Bf3#, Nc2 ~ Ne3# とさせるような形が考えられます。最初の Nc3# となる形は他に比べればなんとかなりそうなので残り2つの形を考えました。また、現状はd6のルークを動かすと逆に黒がメイトになりやすいのでこれを打開するにはクイーンを下の方に転回してくればいけるのではないかと考えて読んでみましたが、解答をみたらこれまた見当違い。正解である1.Bc8は全く考えませんでした。d6のルークの可動域を増やす意味で納得の手です。一番驚いたのは1...Nxc2の手順で、これには2.Ra6 ~ 3.Nb6 ~ 4.Nc4 ~ 5.Ne3 というルートを経てa8のナイトが長距離移動する手順でした。形は見えてもこの手順での実現を思いつくのは大変で、セルフメイトの奥深さを感じました。

Round 2もこれにて終了、結果解けたのはRound1,2合わせても#2と#3だけ目標としていた分は解けませんでした。

詰将棋をはじめ、パズル好きの私としてはまた新しい、そして奥深いパズルに出会って今回のISCも存分に楽しめました。まだ初心者ですので、練習を重ねて出来たらまた来年も参加させていただきたいと考えております。

Category 2 参加レポート

中嶋正和

2019年1月に開催されたISC 2019のCategory 2に参加させていただいた中嶋です。今後参加を検討される方のご参考になれば幸いです。

私は、将棋/詰将棋を始めたのは約30年前ですが、特に実績はなく、チェス歴は、約1年半で中級者程度という「普通」のプレイヤーです。

昨年末にtwitterでProblem Paradiseの新規会員募集を見て、購読を申し込み、今回のISC 2019は、Problem Paradise購読記念ということで参加させていただきました。

Category 2への参加者は、私1人のみでした。Category 1の参加者は、14人、Category 3(12歳以下のジュニアクラス)の参加者は、残念ながらいませんでした。

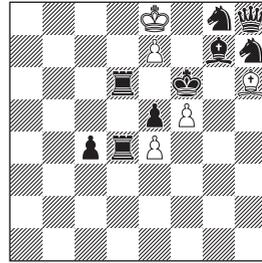
開始前に大会の運営をされる若島さんから、ルール、解答の書き方などの説明がありました。特に、endgameの解答の書き方(メインラインと思う順を書く、変化を何通りか書いてもOK)は、知らなかったので留意しました。

私は、チェスセットを1組用意して臨みましたが、他の参加者の方々は、複数のチェスセットをお持ちの方、チェスセットなしの方など様々でした。

Category 2のRound 1(2時間)は、#2が2問、#3、#4、endgame、H#が1問ずつの合計6問です。

競技開始後、まず#2の2問に取り組みますが、緊張のためか全く解が見えず、焦ります。とりあえず#2を後回しにして、helpmateへ取り組みます。

Cat2-6 Silvio Baier Die Schwalbe 2008

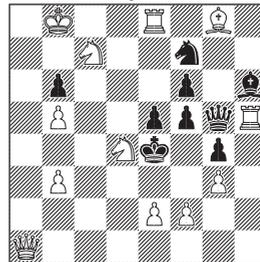


H#2 3 sols. (5+9)

3 solで白のe7のPがプロモーションできそうなので、三種類のアンダープロモーションかな?と作意に気付くものの、Bへのアンダープロモーション以外の正解にたどり着かず、後の2つは誤答でした。

気を取り直して#2に戻ると、1問目の#2は、詰将棋的な?捨て駒で正解が見え、一安心しました。しかし、#2の2問目に苦戦します。

Cat2-2 Ludovit Lacny Ceskoslovensky each 1958 1Pr



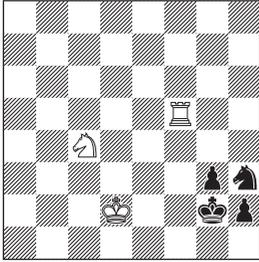
#2 (12+9)

a1のQでa8とh1のスレットにすればいいのか?と考え、1.Sc2?と解答しましたが、これには1...f4!のディフェンスがあり、誤答でした。正解は、ポーンを取りつつ、スレットにする1.Sxf5!です。駒を取りながらのスレットは、気付きにくいですね。

この時点で残り時間が約30分程度しかなかったため、#3、#4、endgameのすべ

てを解答することは諦め、endgame に専念します。

Martin Minski
Cat2-5 (after Pogosyants)
 Original for ISC 2019



Win (3+4)

1.Se3+ Kh1 2.Rf1+ Sg1 の後にどうするのだろうかと考えていると、黒には次に g2 から gxf1=Q とする手しかありません。さらに、黒の h1 の K と h2 の P の配置から Sg3# の形が見えました。

しかし、3.Ke1 g2 4.Sf5 gxf1=Q+ 5.Kxf1 の後、5...Se2 6.Kf2 とする手を見逃し、5...Sh3 6.Sg3# としてしまったため、1点分損してしまいました。

Round 1 の結果は、5+4+2 = 11 点となり、がっかりしながらの昼食休憩となりました。

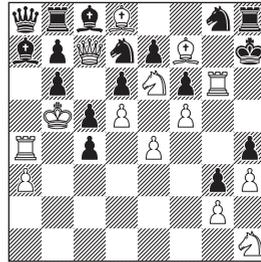
昼食休憩後の Round 2 (2 時間) は、#2 が 2 問、#3、#5、endgame、S# が 1 問ずつの合計 6 問です。Round 2 では、Round 1 の H# が S# に代わっています。

問題をざっと見渡すと、#5 が簡素な形で、直ぐに解答が見えました。続いて、selfmate もスレットの形が見えましたが、Round 1 でのミスを反省し、慎重に変化を確認しながら解答しました。

次に、#2 の 2 問に取り組みます。1 問目の #2 は、Round 1 と同様に詰将棋的な S の捨て駒で正解が見えます。続いて 2 問目

の #2 は、異様な初形です。

Cat2-8 Arsen Dobrila
 The Problems 1992

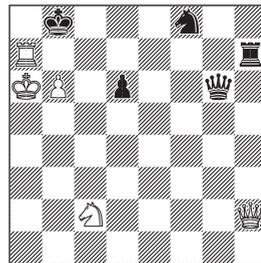


#2 (14+17)

しかし、よく見ると、黒は動かせる駒が 2 つの S しかありません。しかもどちらかが動くときメイトになってしまうため、白としては手待ちすればよく、1.Be8 が正解となります。

#2 の 2 問もミスがないか再度確認してから endgame へ。

Cat2-11 L. Van der Marel
 EBUR 2000



Win (5+5)

1.Sb4 Rxa7 2.bxa7+ Ka8

ここで、3.Qh1+? としてしまうと、3...d5+! と g6 の Q で逆にチェックされてしまい失敗です。ここで何かうまい手があるはず! と必死に考えましたが、正解が見えず、4.Sd5? と誤答してしまいました。この手には、4...Qd3+ があり、失敗です。正解は、先に 4.Qh6! と捨ててから、4...Qxh6 5.Sd5

こうすることで a6 の K にはチェックがかからず、次の 6.Sb6# or Sc7# が受からないため、勝ちになります。見事な手順ですね！

endgame に時間を掛けすぎてしまい、#3 を考える時間はほとんどありませんでした。時間があれば解けそうな問題だけだったので、自分としては十分な結果だと思います。

Round 2 の結果は、 $5+5+5+1+5 = 21$ 点となり、Round 1,2 の合計で 32/60 でした。当初の目標が 30/60 でしたので、自分としては十分な結果だと思います。

Round 2 終了後は、若島さんによる問題の解説、表彰式と続き、Category 2 の参加者は私一人だったため、賞品としてロシア語のチェスプロブレムの書籍をいただきました。

競技終了後、会場近くの中華料理屋で打ち上げが行われました。参加者の皆さんから様々なお話を伺うことができ、非常に楽しいひと時でした。

なお、今回の ISC2019 の直前に『チェス・プロブレム入門』が刊行され、他の参加者の皆さん同様、私も購入させていただきました。チェスプロブレムの各カテゴリーごとの解説だけでなく、練習問題にも詳細な解説がなされており、私のようなプロブレム入門者にとっては非常にありがたい一冊だと思います。

最後に、運営および参加者の皆さんにはお世話になりました。来年も Category 2 で出たいな、と思っていましたが、この原稿を書いている間に、Problem Paradise と『チェス・プロブレム入門』で勉強して、なんとか Category 1 で出られないだろうか、という気持ちになってきました。出来れば来年も参加しようと思いますのでどうぞよろしく願います。

順位	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	時間
1	青嶋未来	5	4	5	-	5	-	5	3.5	5	2	5	-	39.5	240
2	吉岡真紀	5	4	0	5	-	5	5	5	0	3.5	5	-	37.5	238
3	山田康平	5	4	0	2.5	0	0	5	5	1	5	5	-	32.5	232
4	小林敏樹	5	0	-	5	-	0	5	5	-	5	-	-	25	240
5	塩見 亮	5	0	2.5	2.5	-	-	5	4	1	3.5	-	-	23.5	240
6	黒川智記	5	4	0	-	0	-	5	5	0	-	-	0	19	240
7	中村龍二	5	0	2.5	-	-	-	0	4	5	2	0	-	18.5	240
8	筒井浩実	5	-	-	5	-	0.0	5	0	-	2	-	-	17	240
8	松尾朋彦	5	0	2.5	-	-	0	0	5	2.5	2	-	-	17	240
10	鈴木知道	0	-	1	5	0	-	5	0	1	0	0	0	12	240
11	松崎直樹	5	2.5	-	-	-	0	-	3.5	-	-	-	-	11	240
12	相馬慎一	5	0	-	-	-	0	5	0	-	-	0	-	10	240
13	佐々木優	0	0	0	-	-	-	5	2	1	-	0	0	8	240
14	星野健司	0	-	-	2.5	-	-	0	-	-	2	-	-	4.5	240
Cat.2															
1	中嶋正和	5	0	0	0	4	2	5	5	0	5	1	5	32	240

Definitions

<一般的通則>

: 最終目的がメイトであることを表示する。

= : 最終目的がスタイルメイトであることを表示する。

== : 最終目的が双方スタイルメイトであることを表示する。

v : 紛れ (try) を表す。個数は、テーマとなる紛れの数を表す。

* : Set Play を表す。オーソドックスやセルフメイトの場合は黒から指し始め、ヘルプメイトの場合は白から指し始める。作意手数から 0.5 手を引いた手数になる。

sols : solutions すなわち「解」のこと。指定された数だけ解があり、これは余詰ではなく、作意設定のうちに入っている。

b) c) ... : 問題図を a) とし、指定のように配置を変えた図を b) c) ... として、いずれも a) と同じ条件で解くこと。

◆盤上にフェアリー駒がある場合、P はそのフェアリー駒にも成れる。

◆キャスリング可能な位置にある K と R は、それが不可能であるという証明ができないかぎりキャスリング可能とみなされる。逆にアンパッサン可能な位置にある P は、直前の手が取られる P が動いたものと証明ができない限りアンパッサン不可能とする。

<問題設定>

Direct (記号無し) : #n では、白から指し始め、n 手で黒をメイトにする手順を求める。黒はそれに抵抗する。

Duplex : H#n(=n) において黒から指し始めて黒をメイトにする手順と、白から指し始めて白をメイトにする手順の双方を求めるもの。

Help (H) : H#n では、黒が白に協力し、n 手で黒をメイトにするような手順を求める。通常黒から指し始める。白から指し始める場

合は、0.5 手分を引いた形で表記する。

Helpself (HS) : HS#n では、ヘルプで (n-1) 手指して、そこから S#1 になるような手順を求める。通常白から指し始める。

Klan Retractor : 逆算の際、駒の起点をその駒の持ち主が決定し、駒取りの有無と種類は白が決定する。黒は抵抗する。

Parse Series-helpself (Pser-HS) : Series-helpself で、黒が連続して指す手順中にチェックをかけることもでき、その場合は直後に白が 1 手指す、としたもの。

Proca-Retractor -n : 白から戻し始めて、n 手以内で、白が黒を 1 手でメイトにできるような局面を作るのが目的。黒は抵抗する。なお、黒にも白と同様、逆算してから 1 手詰にする権利がある。これを Forward Defense という。

Proof Game (PG) : 実戦初形から始めて、指定された手数で問題図に至るような手順を求める。

Self (S) : S#n では、白から指し始め、白が自分を n 手でメイトにさせるよう黒に強制する手順を求める。

Series-Autostalemate (!) : !=n と表記。白が連続して n 手指し、そのまま白がスタイルメイトになる手順を求める。白は黒にチェックをかけてはならない。

Series-Direct (Series) : Series#n では、白が連続して n 手指し、黒をメイトにする手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。

Series-help (SH) : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が 1 手でメイトなどの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけてはならない。

Series-helpself(SHS) : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が HS#1 などの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけて

はならない。

Series-self (SS) : 白が連続して指定された手数を指し、それから黒が1手で白をメイト(あるいはスタイルメイト)にするよう強制される手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。

<フェアリールール>

Alphabetical Chess: 盤面の枡目に a1, a2, … a8, b1, b2, … h8 という order が付いているとしたとき、すべての着手は、この order でいちばん a1 の近くにある枡目の自駒を動かさなくてはならない。

Andernach : K 以外の駒は、駒を取ると色が変わって相手の駒になる。新しく発生した R はキャスリング可能。

Annan Chess : 俗に言う「安南」ルール。縦の筋に同じ色の駒が重なっているとき、上の駒は下の駒の働きになる。ただし、1段目に P が移動するのは禁手。3段目の駒が P の働きをすることによるダブルステップはできない。3段目の駒が P の働きをすることによるアンパサンは可。

AntiCirce : 駒を取るとき、取る駒 (K を含む) は初形位置に戻り、取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒(取る駒も含む)によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

AntiCirce Assassin : 取った駒は、その初形位置がふさがっている場合でも、そこに再生する。元いた駒は消える。初形位置にある駒は取ることができない。

AntiCirce Calvet : 取る駒がその初形位置に着地するような取りも許す Anticirce。

AntiCirce Cheylan : 取る駒がその原形位置に着地するような取りは禁手とした Anticirce。

AntipodeanCirce : 取られた駒は取られた位置から (±4, ±4) の地点に復活する。8段目に発生した P は任意の駒に成れ、そ

の選択は取りを行った側が決められる。1段目に発生した P は動けない。

BackHome: 初形位置に戻るような着手が存在するときは、それが selfcheck でないかぎり、必ずその手を指さなければならない。

Chameleon Circe : 取られた駒が Q, R, B, S の場合は S → B → R → Q → S と種類を変え、可能ならその駒の初形位置に再生する。

Circe : K 以外の取られた駒は初形位置に再生する。R および S の初形位置は取られた場所の色によって決まる。P の初形位置は取られた筋の2段目。フェアリー駒の初形位置は取られた筋の8段目。取られた駒の初形位置が何らかの駒によって占領されているときはその駒は通常通り盤上から消える。初形位置に戻った R はキャスリング可能。初形位置に戻った P は2歩進むことが可能。

Double Maximummer : Maximummer を白黒双方に適用したもの。

Duelist : Duellantenschach、または Single Combat ともいう。1手前に動かした駒を、次の手番でも動かさねばならない。それが不可能なら動かす駒を自由に選べる。

Eiffel Chess : P → S → B → R → Q → P の順で、その駒によって取りをかけられていると動けなくなる。

Köko : 着手は、そのまわりの8マスに何か駒が存在するような地点にのみ有効。チェックにもこのルールは適用される。

Leffie : Eiffel の反対。Eiffel Chess における paralysis が起こるような着手は禁手。

Madrasi : 同種の駒によって取りをかけられている場合、その駒は動けない。

Masand : チェック(開き王手を除く)をかけたとき、その駒の利きにある敵味方の駒は、Kを除いてすべて色が変わる。

Maximummer : 黒は可能な手の中で移動距離(升目の中心から、中心までの距離)が最大の手を指すとする条件(複数存在するときには、黒はその中から選択できる)。キ

ヤスリングの移動距離は K, R の移動距離を足したもの ($0-0$ は $2+2=4$, $0-0-0$ は $2+3=5$)。チェックおよびメイトの概念はオーソドックスと同じ。

Messigny : 自分の駒を相手の同種の駒と場所を入れ換えることができる。ただし、双方が連続して入れ換えることは不可。(これを本誌では欧州ルールと呼び、「2度連続して入れ換えて元の局面に戻すことはできない」と制限を付けたものを日本ルールと呼ぶことにする。)

Transmuted Kings : チェックをかけられた K は、その瞬間にチェックをかけた駒の働きをするというルール。特に断らない限り、このルールは双方の K に適用される。

Ultraschachzwang : 黒は必ず白 K にチェックをかける。メイトの概念はオーソドックスと同じ。

WandelSchach : 駒が1段目、2段目、7段目、8段目に入ると、その原形位置の駒および色になる。 K は変化しないが、何かの駒が $e1$ または $e8$ に入ることによって K になることもある。

<フェアリー盤>

Wormhole : この地点に入った駒は、別の Wormhole の地点に移動する。

<フェアリー駒>

Berolina Pawn : 進むときは斜めに1マス、駒を取るときは直前にいる敵駒を取る、とした P 。

Double Grasshopper : 一度着地した地点からもう一度跳ぶ Grasshopper。最初の着地地点では駒は取れない。局面を変化させない跳ね方はできない。

Giraffe : $(1,4)$ -Leaper。

Grasshopper : Q の筋で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Invisible : 盤上に存在するが、見えない駒。駒種と位置の両方が確定した瞬間に、その透明駒は透明性を失い普通駒となる。駒取りやメイトは、証明なしには主張できない。メイトとは、解答手順を成り立たせるようななどのような Invisible の代入に対しても、最終局面が通常のメイトになっていることを指す。

Leaper : S の様な動きの駒の総称。 (x,y) -Leaper は駒の居る位置から縦横に (x,y) または (y,x) だけ離れた地点に着地する。間に駒があっても飛越えられる。例えば S は $(1,2)$ -Leaper。

Loco : 動くときは Vao、駒取りのときは B と同じ駒。

Locust : Q の筋で、相手の駒を1枚跳び越して、その直後の地点に着地する駒。着地点は空いている必要があり、かつ跳び越された駒は取られて消える(取りなしで動くことはできない)。

Neutral : 白および黒のどちらからも動かせる駒。取ったり取られたりすることもできる。 n の記号で表し、 nQ という風に表記する。 nP は成ると Neutral 駒に成る。ただし、普通の P が Neutral 駒に成ることはできない。フェアリー駒が盤上に現れている場合は、 nP はその Neutral フェアリー駒に成れる。

Nightrider : $(1,2)$ -Rider。

Rider : R や B など一定の方向にどこまでも進めるが駒にぶつかるとその先には進めない駒の総称。 (x,y) -Rider は進める方向が (x,y) -Leaper の延長となる。例えば R は $(0,1)$ -Rider。

Total Invisible : 駒種と位置のみならず、色もわからない透明駒。細則は Invisible の項に従う。

Vao : Chinese piece の一つ。 B のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先(直後でなくてもいい)にある駒を取る。

Zebra : $(2,3)$ -Leaper。

第 83 号解答成績

	D	E	H	S	F	R	U	計
Max	25	30	100	10	90	20	15	290
井上順一	5		25	5	48	15	5	103
内田 昭	5		49		6			60
小畑 勉	5		30	5				40
及川弘典							10	10
九尾	15		15				10	40
齋藤光平							5	5
小林看空			100	10	5			115
駒井信久			100	9			15	124
塩見 亮	5	15	98.5	10				128.5
則内誠一郎	15		100		68		5	188
原岡 望	5		13				0	18
星野健司	15		98.5	10			5	128.5
水野勝久	5		27		10			42
宮嶋亮一	10		10					20
若島 正		20						20
渡邊一雄			81					81

第 83 号の解答者は 16 名でした。新規解答者は九尾さん。これからもどうぞよろしく。

成績は、1 位が則内誠一郎さんで、188 点 (65%) の好成績。

2 位はぴったり同点の 128.5 点 (44%) で、塩見亮さんと星野健司さんが並びました。以下、100 点を超えたのは、駒井信久さん (124 点、43%)、小林看空さん (115 点、40%)、井上順一さん (103 点、36%) でした。

本号も多数の解答をお待ちしています。特に、新入会員の方々は、ぜひ挑戦してみてください。

『チェス・プロブレム入門』

刊行のお知らせ



かねてからの課題だった、『チェス・プロブレム入門』がようやくできあがりました。

本誌の体裁を踏襲して、ダイレクト・メイト、エンドゲーム・スタディ、ヘルプメイト、セルフメイト、フェアリー、レトロの6つのセクションに分け、それぞれ基本的な事項を解説しています。また、練習問題も付けたので、トレーニング用には最適です。

執筆者は、高坂研、小林敏樹、橋本哲、吉岡真紀、若島正の5名。128ページで、1500円（送料は当方負担）。

プロパラ会員の方々には、ぜひお買い求めいただきたいと思っています。申し込みは郵便振替でJCPSまで。

なお、作品を引用させていただいた、次の方々には、1部ご購入いただいた際に、もう1部無料で差し上げております。こちらの方もどうぞよろしく。

原亜津夫、橋本孝治、橋本哲、笠原三郎、菊田裕司、小林敏樹、高坂研、永野浩、吉岡真紀、斎藤吉雄、相馬慎一、内田昭、上田吉一、若島正、渡邊一雄、山田康平、山崎博嗣、屋並仁史